山梨県立大学地域研究交流センター 2011 年度研究報告書

年　報

山梨県立大学地域研究交流センター

目　次

地域研究交流センター長挨拶　地域研究交流センターはさらに地域に開く　・・・・・・・・・・　1

Ⅰ．交流・支援部門　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3
　1．講師・委員等の応嘱　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4
　2．学外からの相談等への対応　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5
　3．高校大学連携講座の実施　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5
　4．教員の地域貢献活動への支援　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　6
　5．学生による地域貢献活動への支援　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7
　6．大学周辺自治会との連携　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　8
　7．看護・福祉専門職支援　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　11

Ⅱ．情報発信部門　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　13
　1．年報の発行　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　14
　2．ニューズレターの発行　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　14
　3．ウェブサイトでの情報発信　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　15

Ⅲ．生涯学習部門　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　16
【1．地域研究交流センター主催講座】
　1．「山梨県立大学春季総合講座 ～最前線シリーズ～」　・・・・・・・・・・・・・・　17
　2．「観光講座 2011」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　18
【2．県民コミュニティカレッジ】
　1．地域ベース講座「東日本大震災後の社会と日本を考える」　・・・・・・・・・・・・　19
【3．地域連携講座】
　1．「在日外国人のための日本語講座」　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　20
　2．「幼児教育センター講座」　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　21
　3．「子育て食育講座」（第 2 回）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　23
　4．「子育て支援リーダー養成講座」　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　24
　5．「平成 23 年度地域子育て創生事業」　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　26
【4．学部共催講座】
　1．「日本語指導者養成講座（基礎編）」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　28
　2．「ソーシャルワーカーリカレント講座 2011」・・・・・・・・・・・・・・・・・・　29
　3．「第 5 回子育て支援フォーラム」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　29
　4．「第 5 回保育リカレント講座」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　30

５．「学部講演会」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
６．「健康講座」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32

Ⅳ．地域研究部門　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
１．プロジェクト研究　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
２．共同研究　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38
３．研究報告会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42

Ⅴ．戦略開発部門　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43

Ⅵ．事務局　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46
１．運営委員会記録　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46
２．組織図・委員名簿　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47
３．地域研究交流センター委員一覧　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48

資料
１．年間時系列記録　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49
２．フライヤー等　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55

地域研究交流センター長　挨拶

「地域研究交流センターはさらに地域に開く」

地域研究交流センター長　前澤哲爾

2005 年開学と同時に設置された当センターは、地域に開かれた大学を具現化すべく、多くの地域貢献活動を推進してきた。2010 年からは公立大学法人化を果たし、自主的運営のメリットを生かし、地域活動をより強化していく方針で臨んできた。

とりわけ、公立大学の機能と役割を知っていただくと共に、外部の方々と協働して事業を行うことを追求した。本年度後期から「授業開放講座」を新設し、社会人の方が大学で簡便に授業を受けられるようにした。「地域ファシリテーター養成講座」では、地域で活動する人々を支援するためのノウハウを提供した。ＮＰＯ「えがおつなげて」と連携協定を結び、山梨の課題解決のための方策を定期的に検討してきた。また「やまなし映画祭」事務局を担当し、この映画祭で初公開長編ドキュメンタリー「きょうを守る」の上映にも協力した。こうした活動を通じて、外部の方々と大学の人材が相互に知り合うことによって、さらに良好な関係を築き、今後の展開に資するものになると確信している。

地域研究の推進と地域への還元

（１）10 研究プロジェクトの実施

「地域研究部門」は、毎年センターが指定して行う「プロジェクト研究」と学内募集する「共同研究」に対して、予算配分して実施支援をしている。

本年度は、プロジェクト研究 4 件と共同研究 6 件を実施した。

（２）報告会開催と情報発信

昨年度の研究成果発表会は、当初 3 月 17 日に予定していたが、直前に起こった東日本大震災のため延期となり、5 月 18 日に開催することとなった。2 会場に分け 11 の発表を行った。学外から予想以上に多くの方が来場され、熱心にメモをとるなど、積極的に参加していただいた。また、マスコミ関係者からは、多くの発表項目に対して、取材依頼があり、研究が高く評価された証といえよう。

本年度は 3 月 23 日に実施し、2 会場で 10 件の発表が行われた。地域の方々や教員・学生を含め、100 人以上の参加があった。

「授業開放講座」の開始

（１）講座開催の意味

生涯学習は、本学でも積極的に講座開設している。しかし、教職員数の少ない大学では、一年を通した「教養的な生涯学習講座」を開設することは困難である。また、そうした講座は多くの大学がすでに実施しており、本学が改めて開始する必要性はないと考える。しかしながら、多様な講座を提供すること自身には地域のニーズがあることから、本年度後期から一般授業を社会人に公開する講座を開始した。

（２）講座開催実績

前期は、実施規程の整備、開設講座の決定、募集要項の作成などを行い、8 月から募集を開始し、後期受講開始とした。最終的には、13 科目で募集し、9 科目で 12 名（実人数 11 名）が受講した。来年度は前期後期とも開設し、さらに拡充させたい。

対外機関との連携活動の強化

（１）「地域ファシリテーター養成講座」

内閣府が進める「新しい公共」事業の一環として県が募集した上記講座の運営を大学が受注、地域研究交流センターが窓口となって実施した。10 月から月 1 回計 6 回にわたり、講義、現地調査、ワークショップを行い、地域魅力の発見とプロジェクト立案を軸として、地域におけるファシリテーターのノウハウを提供した。当初定員を 30 名としていたが、関心が高く 44 名の方が県内 17 自治体から参加した。

（２）「やまなし映画祭 2011」

甲府商工会議所にあった映画祭事務局を昨年度からセンター内に置いた。全国でも地域映画祭の事務局を大学が引き受けている例はない。昨年度 3 月実施予定の映画祭は、地震により中止となった。年度が替わり、5 月から改めて 2011 年度の計画を策定し、10 月～11 月にわたる 3 日間、開催した。観客数 900 人は、今までで最も多い記録となった。

センター機能の充実

ウェブサイトは、全面リニューアルを行い、また NEWS LETTER である「tobira」を 3 回発行した。いずれも、親しみがあり読みやすく分かりやすいことを目指している。

センター事務室は、レイアウト変更し、作業用パソコンも配置され、かなり使いやすい環境となった。センター事務局員が採用されたことによって、「やまなし映画祭」事務局を引き受けることができた。また、「サービス・ラーニング(SL) 開発センター」も設置されている。

今後の課題

センターの地域研究、生涯学習、交流支援、情報発信の各部門での活動は、それぞれ毎年充実、進化している。しかし、どうしても人的不足のため、県内各機関との協働事業や地元地域と交流などの、まだまだやり残していることが多い。ゆっくりでもじっくりと進めていくしかない。来年度は、その点を肝に銘じて着実に歩を進めたい。

この年報は、運営委員、専門部会委員、担当事務局の方々や多くの関係者のご協力によって発行されている、非常に重要な資料である。年間活動を総括し、記録に残すことは、歴史に 1 ページを刻むことに他ならない。将来きっとこの資料的価値が再認識することになるに違いない。

最後に、ご協力いただいたすべての方々に感謝すると共に、今後とも地域研究交流センターへのご支援を切にお願いしたい。

（文責：前澤哲爾）

交流・支援部門

1. 部門事業の概要

（１）講師・委員等の応嘱

学外の団体等からの依頼により、本学教員が講演、研修等の講師を務めるほか委員等へ委嘱された。

（２）学外からの相談等への対応

学外団体主催行事への協力、協力名義提供、施設提供などに対応した。

（３）高等大学連携講座の実施

平成 18 年度から実施している「家庭看護・福祉」の科目の高校大学連携講座を継続して実施した。

（４）教員の地域貢献活動への支援

支援メニューを学内教員に周知した。また、メニューに基づく支援を行った。

（５）学生による地域貢献活動への支援

「学生優秀地域プロジェクト」認定・支援の制度に基づき、４件のプロジェクトを認定・支援するほか、「学生活動支援室」の活動とし、学生の地域貢献活動を促すための情報提供を行った。

（６）大学周辺自治会との連携

昨年に引き続き、池田キャンパス周辺の３自治会自治会長、飯田キャンパス周辺１自治会会長、役員の参加を得て、地域自治会と大学との情報交換会を大学及び、地域自治会に出向いて行った。また、情報交換会であがった地域自治会の要望に基づき、地域の行事へ、学生や教員が参加・協力した。

（７）看護・福祉専門職支援

本年度は、大学祭における福祉専門職交流コーナーの設置、地域自治会の行事への看護学生への参加・支援という二つの新しい活動を行った。

2. 部門事業の実績と課題について

大学周辺自治会との情報交換会、それを契機とした地域自治会行事への大学の教育・研究機能をいかした貢献が少しずつ広がっている。また、大学祭の時の専門職交流の場を設置する事業も継続している。本学の教員・学生の人材を生かして、地域や専門機関などと、足元の地域から、地道に日常的に、交流・支援を広げていく方向性を大切に少しずつ進めていきたい。学内の教員の理解・協力、学生参画をさらにすすめていくことも課題となる。

１．講師・委員等の応嘱

本学教員は、学外の団体・自治体・学校等から依頼を受け、各種講師・委員等に応嘱している。平成23年度の応嘱状況を下の表に示す。これによれば、全学でのべ490件の応嘱があり、内訳は、講義・講演が323件、委員等が151件、その他が16件であった。学部別には、国際政策学部31件、人間福祉学部が127件、看護学部が152件、職員等が13件であった。

なお、本報告における数値は平成24年3月30日までに事務局・総務を経て、地域研究交流センターが把握した情報に基づくものである。ここに示した数値は、大学に対し文書による派遣依頼がなされた案件、もしくは大学が人員選定等に関与した案件に限定されており、これ以外にも把握されていない案件が相当数存在すると考えられる。

表１　平成23年度の講師・委員等応嘱状況

	依頼内容名			
学部名	講義･講演	委員等	その他	総計
国際政策	31	14	5	50
人間福祉	127	14	7	148
看護	152	116		268
職員等	13	7	4	24
総計	323	151	16	490

表２　平成23年度の講師・委員等応嘱状況の内訳：講義・講演

依頼者	国際政策	人間福祉	看護	職員等	総計
幼稚園・保育所					
小中学校		3	3		6
高等学校			4		4
専門学校	1	4	4		9
大学・短期大学	24	34	12	8	78
県関係機関	1	25	66		92
市区町村		31	25		56
各種団体	5	27	15		47
医療機関・福祉機関等		3	23	2	28
省庁等					
その他				3	3
総計	31	127	152	13	323

表３　平成23年度の講師・委員等応嘱状況の内訳：委員等

依頼者	国際政策	人間福祉	看護	職員等	総計
高等学校	1				1
大学・短期大学		2			2

県関係機関	9	11	67	2	89
市区町村	6	4	30		40
各種団体	8	5		3	16
医療機関・福祉機関等		1	21		22
省庁等	2	3		1	6
その他		2	8	1	11
総計	26	28	126	7	187

表４　平成 23 年度の講師・委員等応嘱状況の内訳：その他

依頼者	国際政策	人間福祉	看護	職員等	総計
小中学校					
県関係機関	2	1			3
市区町村				1	1
各種団体	2			1	3
医療機関・福祉機関等				1	1
その他		2		1	3
総計	4	3		4	11

（文責：川池智子）

２．学外からの相談等への対応

地域研究交流センターは、学外と大学を結ぶ窓口として活動しており、さまざまな依頼・相談・照会等に対応するほか、学外団体主催行事への協力、協力名義提供、施設提供などに対応している。各教員が独自に行っているものも多いため、後援、支援などを行った事業は十分把握できなかった。以下の事業は報告された。

平成 23 年度は、国際政策学部の吉田均准教授が、山梨 YMCA からの依頼により、障害者の自立のためのチャリティーである「第 14 回山梨チャリティーラン 2011」（主催：山梨 YMCA ・甲府ワイズメンズクラブ・山梨日日新聞・山梨放送ほか）に、学生（27 名）をボランティアランナーとして派遣した。

（文責：吉田均）

３．高校大学連携講座の実施

「山梨県特色ある高校づくり支援事業」として、城西高校からの依頼を受け、平成 18 年度より実施している看護・福祉系進路希望者を対象とした高校大学連携講座「家庭看護・福祉」を本年度も継続して実施した。看護学部 8 名、人間福祉学部 7 名、計 15 名の教員の協力があった。教員名とテーマは以下のとおりである。

講義	月日	担当	講義テ−マ
人間福祉学部	5 月 24 日	神山裕美先生	グループの力を生かす～連携と協働～
看護学部	5 月 31 日	平田良江先生	産後の母子の変化と助産ケア
人間福祉学部	6 月 14 日	川池智子先生	発達障害はスペクトラム：理解と関わり方
看護学部	7 月 5 日	田淵和子先生	子どもの成長・発達と看護
看護学部	8 月 30 日	小山尚美先生	高齢者の言動を科学的に理解しよう！
看護学部	9 月 6 日	相羽利昭先生	援助するということ
看護学部	9 月 13 日	本間隆之先生	わかっちゃいるけんど、やめられんねえ
看護学部	9 月 21 日	井川由貴先生	生命危機状態にある患者の看護
人間福祉学部	10 月 4 日	中島朱美先生	高齢者を支えるということ
看護学部	10 月 11 日	清水惠子先生	自殺予防、私たちにできること
人間福祉学部	10 月 18 日	鳥居美佳子先生	賢く美しくなるためのダイエット
看護学部	10 月 25 日	小野　興子先生	がんの秘密
看護学部	11 月 1 日	小尾栄子先生	学校保健について
人間福祉学部	11 月 8 日	池田充裕先生	子どもの貧困と教育・社会格差
人間福祉学部	12 月 6 日	藤谷秀先生	コミュニケーションとは？
人間福祉学部	1 月 24 日	斎藤秀子先生	高齢者と接するために和の衣生活文化

（文責：川池智子）

４．教員の地域貢献活動への支援

（１）教員への支援メニューの策定・周知

前年度に続き、教員が自主的におこなう地域貢献活動を促進するために、教員を対象とした支援メニューを周知した。周知したメニューは以下の通りである。

A. センター主催の「地域交流ミーティング」としての採択・実施

・教員による自主的な地域貢献活動のうち適切なものを、センター主催の「地域交流ミーティング」（後述）として実施する。

B. センター「支援事業」の認定・支援

・センターの「支援事業」として認定する。認定事業はセンター経費を利用することが可能となる。また、報道機関への情報提供、センターのウェブサイトを通じた広報などの支援をおこなう。

C. センター「後援」等の名義使用

・センターの後援名義の使用を認める。

・教員が主体的に関与する事業のほか、学外団体から協力を依頼された事業で、本学の地域貢献として賛同・応援の意思表明をするにふさわしいものを対象とする。

D. 学生ボランティアの募集協力

・センターが本学での学生ボランティア募集に協力する。
・教員が主体的に関与する事業または教員が学外団体から協力依頼された事業で、本学の地域貢献としてふさわしく、かつ学生参加の観点からも適切なものを対象とする。

（２）平成 21 年度の実施事業

今年度は人間福祉学部人間形成学科の池田政子教授より、「やまなし地域女性史『聞き書き』プロジェクト」への支援が申請され、一部助成した。

（文責：川池智子）

５．学生による地域貢献活動への支援

（１）「学生優秀地域プロジェクト」の認定・支援

「山梨県立大学地域研究交流センター『学生優秀地域プロジェクト』認定・支援制度 実施要項」を平成 20 年 6 月に定めた。これは、本学の学生又は学生団体が地域において実施する事業で、地域および本学に対してすぐれた貢献をしたものを認定し、本学学生による地域課題解決のための継続的な活動を推進することを目的としたものである。認定されたプロジェクトは、本学ウェブサイトに公表するほか、センターが可能な支援を行う。

実施要項に基づき、平成 23 年度認定プロジェクトの選考を以下のプロセスで実施した。

(a) 教職員からの推薦

実施要項では推薦の資格を有するのは本学教職員となっている。平成 23 年 12 月に教職員からの推薦を募った。その結果、7 件のプロジェクトが推薦された。

(b) 選考委員会による選考

センター長が組織した選考委員会において選考をおこなった。選考委員会のメンバーは、小田切理、深澤理事、前澤教授、小林教授、大塚准教授、川池准教授、箕浦准教授の 7 名であった。平成 24 年 1 月 19 日に選考委員会が開かれ、協議の結果、4 件のプロジェクトの認定が決定された。

(c) 認定

認定式を平成 24 年 1 月 26 日 12:20～12:50 に飯田キャンパス A 館 6 階サテライト教室にて開催した。

平成 23 年度 学生優秀地域プロジェクト 認定一覧

番号	プロジェクト名	実施主体名
1	地域資源を活かしたビジネス展開の可能性の実践（甲斐絹の知名度向上活動および新製品開発の取り組み）	あのひもすかプロジェクト
2	YPU　キャラクター　プロジェクト	YPU　キャラクター　プロジェクト
3	被災者の生活に寄り添い、絆を再生するプロジェクト	震災ボランティア県大生の会
4	着地型観光情報発信プロジェクト	着地型観光情報発信グループ

（２）「学生活動支援室」の活動

平成 19 年度より設置している「学生活動支援室」により、学内に設置した掲示板を通じて、大学・教員に寄せられる学生ボランティア募集などの情報の学生への情報発信をおこなった。

（文責：箕浦一哉）

６．大学周辺自治会との連携

大学周辺自治会との情報交換は本年度、学内で１回開催した。3 年目となり、地域自治会との信頼関係も次第につながってきている。学内の行事や講演会などの情報発信も、この情報交換会が、功を奏している。池田地区総合防災訓練への参加・協力、健康まつりへの協力なども活発におこなわれるようになってきた。

情報交換会記録

日時：平成２３年７月１１日（月）１６時３０分～１７時４０分　場所：飯田キャンパス中会議室

出席者：宮下飯田鶴巻台西自治会長、五味荒川自治会長、大久保長松寺北部自治会長、保坂長南自治会長　大学：深沢事務局長、波木井理事、前澤センター長、川池交流支援部門長、渡邊裕子委員、加藤総務課長、小川池田事務室長、矢ノ下センター担当職員

議事の内容

（１）各自治会の行事への大学への参加・協力要請

⑴池田自治会

①昨年度の自治会事業への大学の協力等、前澤先生の研究にも参加させていただいた。

また、町民運動会にやまちゃんの着ぐるみも参加してもらい、東日本大震災への義捐金で約 13 万 4 千円を集めて山梨放送へ寄附することができた。感謝している。

文化祭（陶芸部・和太鼓部）、健康祭り（看護学部　小林教授、渡邊准教授指導）に大学側から参加。

②今年度の事業の予定

１）池田地区ふるさと祭り（８月２０日、５時頃から９時頃まで）

約千人ほど住民が参加するので、学生の手伝いをお願いした。

※これについては対応したが当日雨天のために中止となった。

２）一斉防災訓練（８月２８日）

３）池田地区連合会の文化祭（１０月１５日、１６日）

大学側からも出展をお願いした。理事会で既に参加する前提で話が進んでいる。

※昨年と同様和太鼓部と陶芸部が参加した。

４）健康祭（３月４日）への協力依頼。※下記記載。

５）法務省主催の「社会を明るくする運動」に協力しており、７月１２日７：３０から少年鑑別所長を招いて講演会を実施した。

⑵飯田自治会

１）運動会（１０月１０日）を実施した。飯田近辺の２２自治会が合同で旧穴切小で実施。昼の休憩時間にキャンパスキャラクターのやまちゃんの着ぐるみの出演要請があった。

２）文化祭（１１月２５日）

３）納涼会（８月８日）県立大飯田キャンパスグラウンドで実施。８０人程度が参加。
４）防災訓練（８月２８日）

（２）大学からの情報提供

１）授業開放講座の開設についてお知らせした。
２）キャンパスキャラクターのやまちゃんも地域の活動で活用してもらいたい。地域のイベントにも学生の都合が合えば出来る限り参加する。
３）地域の歴史・文化を楽しむフットパスという取組があり、飯田キャンパス周辺でも地域でツアーができるような情報収集を行っているところである。池田地区でも今後同様の取組を行う予定である。

（３）本学の防災計画について

・飯田キャンパスは一時的な避難場所として登録があり、災害時には鍵を開けてグラウンドへ避難してもらう手筈になっている。ただし、本学は継続的に生活する可能性のある避難所としては位置づけられていないので、その旨御承知置き願いたい。(大学)
・池田地区一斉防災訓練へ、看護学部教員・学生の協力（8 月 28 日）の件。上記記述。
・防災訓練への学生の参加要請・・自治会がある地域のアパートには県立大学学生も入居しているので、居住している学生たちも池田小に来て訓練に参加してもらいたい。
・現在新規に整備されるアパートの建築に自治会として同意するにあたっては、自治会への加入を条件にしているが、古いアパートでは自治会に加入しておらず、状況を全く把握していないところがある。これらに居住する学生への対応が今後問題だと思う。
・大学からの意見・・池田キャンパスも飯田キャンパスと同様一時的な避難場所として位置づけられている。ただし、大災害が起こった場合には被災者をどのように受け入れるのか大学として検討することになると思う。大災害があれば本学の学生も被災する。相互に協力し合う体制が必要だと考えている。
・地区毎のより細かい防災マップがあるので、学生への周知に役立ててもらいたい。（自治会）

（４）池田地区総合防災訓練への参加・協力

池田地区自治会連合会より、山梨県立大学地域交流センターをとおして協力の依頼があった。依頼を受け、担当者が池田地区連合自治会で行われた防災訓練の企画会議（2 回）に参加し、綿密な打ち合わせを行った。また、地域住民用に「おぼえておこう災害時の応急処置」、小学生用に「こどもにもできる応急処置」という自作の資料を用意し、当日は看護学部の教員と学生が参加した。

日時：平成 23 年 8 月 28 日（日）9:00～12:00
場所：池田小学校体育館および教室
協力者:教員（6 名）小林たつ子・流石ゆり子・小山尚美・森田祐代・萩原理恵子・渡邊裕子
　　学生（5 名）稲葉希・鈴木亨・高橋由衣（4 年生)、森本津弓・永富千尋（ 3 年生）
内容：救護訓練
　・災害時救護所で活用できる救護（看護）の知識と技術
　・小中学生に向けた災害時の応急処置（大人とは別に開講）

池田地区の住民 828 名（小中学生を含む）が参加し、大規模な防災訓練が実施された。その中で救護所において住民ができる応急処置（骨折時の固定・気道確保・止血法等）について、参加者の協力を得ながら実践指導を行った。大人とは別の教室では、小学生を対象に出血や熱傷時の処置等について指導した。住民は真剣に参加し、熱心に質問したり実技を行ったりしていた。「普段の訓練では体験できない内容が盛り込まれていて大変参考になった」と多くの感謝を、また、小学校の校長からは「命の大切さを学ぶことができ、参加できなかった生徒にも話したい」という言葉をいただいた。

救護訓練の指導という立場での参加であったが,学生も教員も地域の住民としての自分の役割を考えることができ、同時に多くの大学周辺自治会住民との交流が持てる貴重な機会であった。

なお、本事業への協力については、山梨日日新聞（平成 23 年 8 月 29 日版）の防災訓練特集記事の中に、訓練時の写真とともに紹介されている。

（文責:渡邊裕子）

（５）「池田地区健康まつり」への参加・協力

2012 年 3 月 4 日（日）に甲府市西部市民センターで開催された「池田地区健康まつり」に、看護学部の教員と学生が参加した。池田地区連合自治会からの要望を受け、昨年度に引き続いての参加・協力であった。昨年度の経験を踏まえ、血圧測定・酸素飽和度測定・体組成測定・Functional Reach Test（姿勢反射機能と柔軟性の評価）を企画し、当日は教員指導の元に学生が測定を行った。測定した結果を渡しながら参加した地域住民の健康に関する相談に応じたり、自作のパンフレットを用いて転倒予防体操や生活習慣病の予防について指導を行なったりしながら交流を深めた。来場者は 80 名以上で、ほとんどが高齢者であった。「地元にある大学の若い学生が地域の活動に参加してくれることがうれしい」や「若い学生と話ができてパワーをもらった」などの言葉をいただき、好評であった。また学生は、「今まで学んだ知識や技術を実際の場で生かせる機会だった」や「応援してくださる言葉をいただいて、もっと頑張らなければと思った」など、貴重な機会をいただいたことに感謝していた。

昨年度を上回る人数の住民が測定に訪れ、地域住民からは大好評を得て、「今後も是非継続して参加してほしい」という要望もいただいている。また、学生にとっても大学のある地元の方々との交流を深めながら、地域で生活する人々の健康ニーズに直接触れることのできる貴重な機会でもあるため、今後も継続して参加・協力していきたいと考える。参加教員と学生は、以下の 10 名である。

教員（4 名）：流石ゆり子・小山尚美・森田祐代・渡邊裕子
学生（6 名）：佐藤広実（4 年生）、塩野入幸子・南澤悠季（3 年生）、
佐野真弓・常平真衣・保坂真美（2 年生）

（文責：渡邊裕子）

（６）その他

・今年度タイからの留学生を初めて受け入れる。日本文化・制度を知るための活動の一環で日本の自治会制度についても見学させてもらうことがある。その節は是非御協力をお願いしたい。（大学）
・お年寄りの実態を知るために、グランドゴルフの集まり等に学生が基礎演習のフィールドワークとして参加することを考えている。こちらも協力をお願いしたい。（大学）
・防災訓練にも学生が参加してもらった方がいいのではないか？（自治会）

（文責：川池智子）

７．看護・福祉専門職支援

（１）大学祭での福祉専門職交流コーナーの設置

昨年に引き続き、今年度も、飯田キャンパス大学祭（11 月 5 日午後 1 時～6 日午後 4 時、C 館 1 階１０２教室）にて、福祉専門職交流コーナーを設置し、福祉コミュニティ学科学生をスタッフにして、地域の福祉専門職（卒業生を含む）、地域住民の人たちとの交流を深め、好評を得た。今年度は、学生サークル「もったいない」のメンバーが中心になって、運営をしていただいた。以下、学生スタッフの感想の一部を掲載する。

○もっと堅い感じなのかなーと思っていたのですが意外と気軽に楽しくできました!卒業生のかたも来てくれていたので、県大の学生ももっと参加出来ればよかったと思いました。
○私の印象に残っているのは、「健常者と障害者の違いは，スロープ等の存在を日頃から意識しているか

いないか」という当事者の方の言葉です。C館にスロープがあるか思いだそうとしても全く分からず、当事者の方の方がよく知っていました。意識して身の回りの障害を見つけることが大事だと思いました。
〇昨年ボランティアセンターでお世話になり、またアルバイト先でもお会いした事のある方が来て下さいました。色々なお話が出来て、とてもためになりました。
〇普段、地域の人とお話する機会はなかったので交流コーナーは学園祭に来て下さった方と話すいい機会でした。学生と話すと楽しいということや休憩できると言って下さったので嬉しかったです。
〇短い時間でしたが、１つの催しを最初から最後まで責任を持って取り組むということは、あまり経験して来なかったことなので、とても勉強になりました。1 年生、同級生、先生方に力を借りることできたからこそ、行えたと思います。当日は、卒業した先輩、在学中の先輩、一般の方、少ない人数ではありましたが、とても貴重なお話を聞くことができ、楽しく過ごしました。参加出来てよかったです。
〇色々な方と触れ合えて楽しかった。先輩や当事者の方から具体的なお話が聞けて、勉強になりました。
〇少ししか居られませんでしたが、色んな方のお話を聞けて良かったです。気になったところは入り口がわかりにくい。立て看とか飾りつけをもっとしても良かったとおもいます。地域の方々に呼びかけたら色々作品を飾ることができて、よりふれあったりできたのではないかなと思います。もう少し早く動けたら良かったと思います。

（文責：川池智子）

情 報 発 信 部 門

1. 部門事業の概要

(1) 年報の発行

『2010 年度山梨県立大学地域研究交流センター年報』を 2011 年 5 月 31 日付けで発行した。

(2) 地域研究交流センターニューズレターの発行

地域研究交流センターニューズレターは、大学と地域を結ぶ機関紙として発行し、県内外に配布している。2011 年度は下記の通り発行した。

①第 13 号 : 2011 年 5 月 10 日発行
②第 14 号 : 2011 年 9 月 28 日発行
③第 15 号 : 2012 年 2 月 14 日発行

(3) ウェブサイトでの情報発信

ウェブサイト上において、センターの概要、地域支援、生涯学習の案内、地域研究、教育改善、刊行物等について情報発信した。

2. 部門事業の実績と課題について

ニューズレター、年報、ウェブサイトの媒体を用いて情報発信を進め、地域研究交流センターの事業活動についての内外への周知を行った。こうした情報発信は事業記録としても有効であり、大学の説明や自己点検評価等にも活用されている。

2011 年度は、2010 年度に見直した情報発信体制の継続的な運用を行った。とくにリニューアルしたニューズレターについては発行回数を年 3 回に増やし、充実を図った。こうした取り組みにより 2009 年度以前と比較して効果的な情報発信ができるようになったと考える。

2010 年度に発行したパンフレットや毎回発行するニューズレターの活用、ウェブサイトの更新頻度・内容の充実については、一定の成果はあるものの、まだ改善の余地がある。的確で効果のある情報発信ができるように改善を図ることが課題と言える。

1. 年報の発行

『2010 年度山梨県立大学地域研究交流センター年報』を 2011 年 5 月 31 日付けで発行した。この年報は地域研究交流センターの事業実績を年度ごとにまとめたもので、地域研究交流センター説明資料や自己点検評価等の資料として活用されている。2009 年度までは年度末に年報を発行してきたが、2010 年度からは次年度の 5 月に発行時期を変更した。

（文責：箕浦一哉）

2. ニューズレターの発行

地域研究交流センターニューズレターは、大学と地域を結ぶ機関紙であり、大学の教員や学生による地域貢献、地域住民・関係機関・自治体等との連携事業を県内に紹介するとともに、全国に向けて発信する役割を持つ。

2009 年度までの 5 年間で 10 号のニューズレターを発行したことを節目として、2010 年度発行分からデザインと内容を一新し、新たに「tobira」という誌名をつけた。また、取材・執筆・編集の多くの部分を学外編集者に委託することで、内容の充実を図ってきた。2010 年度までは年 2 回発行であったが、2011 年度より年 3 回発行として、よりきめ細かい情報発信をおこなうこととした。

2011 年度は 13～15 号のニューズレターを発行した。発行部数は 4,000 部で、このうち 2,957 通を関係先 597 箇所へ発送している。内訳は、県関係（46 箇所）、市町村（27 箇所）、文化施設（56 箇所）、県内大学（11 箇所）、実習先（病院・福祉機関・幼稚園・保育所等、143 箇所）、企業（14 箇所）、県内非営利活動法人（169 箇所）、県内高校（54 箇所）、その他（77 箇所）である。各号の概要は以下の通りである。

（1）ニューズレター 第 13 号の発行

2011 年 5 月 10 日発行のニューズレター第 13 号は以下の内容とした。

・特集「おじゃまします！山梨県立大学です。」第 2 回：大塚ゆかり准教授が市川三郷町でまちおこしに取り組む「みさとの会」の深沢新次郎さん、鈴木美枝さんと語り合った内容を掲載した。
・「地域とつながる」（県立大学の地域連携・地域貢献事業の紹介）：「山梨県立大学と丹波山村が連携した取り組み」を紹介した。
・「VOICE」（学外者へのインタビューによる県立大学の取り組みの紹介）：やまなし地域女性史「聞き書き」プロジェクトに関して、研究協力員の山中淑子さんへのインタビュー記事を掲載した。
・「私たちの一歩！」（学生による地域貢献活動の紹介）：「在宅看護研究会」の活動を紹介した。
・5 月以降の開催予定講座の告知を掲載した。

（2）ニューズレター第 14 号の発行

2011 年 9 月 28 日発行のニューズレター第 14 号は以下の内容とした。

・特集「座談会　災害・地域・大学を考える」：災害をテーマに、被災者支援ボランティアサークルの学生 2 名と各学部教員・理事による座談会を実施し、特集記事とした。
・「地域とつながる」：大学が事務局として関わっている「やまなし映画祭 2011」を紹介した。
・「VOICE」：甲府市副市長・宇野善昌さんへのインタビュー記事を掲載した。

・10 月以降に開催予定の講座・イベントの告知を掲載した。

（3）ニューズレター第 15 号の発行

2012 年 2 月 14 日発行のニューズレター第 15 号は以下の内容とした。

・特集「おじゃまします！山梨県立大学です。」第 3 回：北杜市・八ヶ岳南麓地域で市民と行政が協働して活動する「八ヶ岳南麓風景街道の会」を取り上げ、箕浦一哉准教授が会のメンバー5 名（桑田愛子さん、清水稔三さん、小林伸一さん、河野貴さん、千野裕介さん）と語り合った内容を掲載した。

・「地域とつながる」:「YPU キャラクタープロジェクト」を紹介した。

・「VOICE」: 池田地区連合自治会会長の大久保耕吉さんへのインタビュー記事を掲載した。

・「私たちの一歩！」:「Corason」の活動を紹介した。

・3 月以降の開催予定講座・イベントの告知を掲載した。

（文責：箕浦一哉）

3. ウェブサイトでの情報発信

山梨県立大学のウェブサイト内に、地域研究交流センターのサイトを置き、各種の情報発信をおこなっている。特に、生涯学習部門が実施する講座・研修等のイベントに関する情報は、随時タイムリーな情報発信を行っている。他に、センターの概要、ニューズレター等の刊行物、学生優秀地域プロジェクトの活動報告等を掲載している。

（文責：箕浦一哉）

生 涯 学 習 部 門

1. 部門事業の概要

平成２３年度は、以下の講座を実施した。

(1) 地域研究交流センター主催講座

① 春季総合講座～最前線シリーズ～（３回）

② 観光講座（４回）

③ 地域研究プロジェクト発表会

(2) 県民コミュニティカレッジ講座（広域・地域）

① 県民コミュニティカレッジ（広域ベース講座）

② 県民コミュニティカレッジ（地域ベース講座）

(3) 地域連携講座

① 日本語・日本文化講座

② 幼児教育センター講座（月齢別）

③ 子育て食育講座

④ 子育て支援リーダー養成研修

⑤ 地域子育て創生事業

(4) 学部共催講座

① 日本語指導者養成講座（国際政策学部）

② ソーシャルワーカーリカレント講座（人間福祉学部）

③ 子育て支援フォーラム（人間福祉学部）

④ 保育リカレント講座（人間福祉学部）

⑤ 学部講演会（人間福祉学部）

⑥ 健康講座（看護学部）

2. 部門事業の実績と課題について

昨年度と略同様の講座が開催された。センター主催講座としては「春季総合講座」、「観光講座」、「地域研究プロジェクト発表会」を開催した。地域連携講座としては、各学部の特色を生かし、「日本語・日本文化講座」や様々な地域の子育て支援等に関連する講座を実施した。

また、県民コミュニティカレッジ（広域ベース・地域ベース）では、今回の東日本大震災に関連した統一テーマにより、山梨県内の各大学と連携して実施した。本学の担当した地域ベースにおいても、３学部のそれぞれの専門分野の教員により、特色のある講演を統一テーマの下で実施することができたのは一つの成果である。学部間の研究者交流をより促進させる契機になったのではないかと考える。

来年度に関しては、従来の講座とともに、授業開放講座（通年）が実施される。各講座の実施にあたっては、専属のセンター要員の確保と統一的な講座の広報・運営が必要である。また春季講座のシンポジウム方式による開催など、新たな取り組みへの企画とその内容・実施状況の継続的な評価を踏まえた生涯学習部門の運営体制を整える必要があるだろう。

1.　【地域研究交流センター主催講座】

1.　「山梨県立大学春季総合講座～最前線シリーズ～」（全３回）

（１）趣旨：山梨県立大学の３学部を代表する教員が、現代のもっともホットな話題を、具体的かつわかりやすく解説する地域研究交流センターの春季定例公開講座。

（２）対象：一般県民、大学生

（３）日時：下表参照

（４）場所：山梨県立大学 A 館６階サテライト教室

（５）受講者数　第１回 11 名、第２回 13 名、第３回６名

◆第一回　５月２１日（土）14：00-16：00
演題：「ホームレスって誰？･･･生きることを支え合う地域の力」 講師：下村幸仁氏（山梨県立大学人間福祉学部　専門領域：社会保障論）
◆第二回　５月２８日（土）14：00-16：00
演題：「日本のお年寄りの秘めたる力～いつまでも自分らしく生きる～」 講師：井出成美氏（山梨県立大学看護学部　専門領域：地域看護学）
◆第三回　６月４日（土）14：00-16：00
演題：「魚を守る取り組みと消費者のかかわり」 講師：森田玉雪氏（山梨県立大学国際政策学部　専門領域：資源経済学、国際経済）

（文責：澁谷　彰久）

第一回講師下村氏

第二回講師井出氏

第三回講師森田氏

2.「観光講座２０１１」（全４回）
山梨から発信する「新しいツーリズム」

（１）趣旨：観光は長い歴史を持っていますが、近年その内容はかなり変化してきています。一般的には、名所・旧跡を団体で廻るという従来型観光は減少し、個人・数人グループ旅行で好きな目的に沿った場所を訪れるようになりました。体験型のツアーも増えました。今回は、山梨を生かし、全国に発信できる「新しいツーリズム」を 4 例発表します。

（２）日時：いずれも土曜日 14：00-16：30（表参照）

（３）場所：山梨県立大学Ａ館サテライト教室

（４）講師：表参照

コーディネーター：前澤哲爾（山梨県立大学国際政策学部教授）

（５）実施状況：受講者数第一回３０名、第二回２２名、第三回２５名、第四回６３名、計１４０名で今までの観光講座で最も多かった。

（文責：前澤　哲爾）

第一回	6 月 11 日（土）「ワインツーリズム」 講師：笹本貴之（ソフトツーリズム株式会社社長） 06 年「ワインツーリズム山梨」を事業化して地域づくりに本格着手。 08 年 から毎年、勝沼地域などで「ワインツーリズム」を主催している。
第二回	6 月 18 日（土）「フィルムツーリズム」 講師：前澤哲爾（元全国 FC 連絡協議会専務理事） 日本にフィルムコミッションを導入し、01 年全国組織を立ち上げる。 今では全国に 500 か所を越えるまでに拡大。現在、山梨県立大学教授。
第三回	7 月 2 日（土）「グリーンツーリズム」 講師：曽根原久司（NPO えがおつなげて代表理事） 01 年、農林業をしながら"村・人・時代づくり"をコンセプトに都市農村交流の実現を目指すＮＰＯを設立。「空と土プロジェクト」などさまざまな活動を展開。
第四回	7 月 9 日（土）「フットパスツーリズム」 講師：山本育夫（NPO つなぐ理事長） 03 年、NPO 設立し、各種ツアーづくりと、ガイドブックづくりを行う。現在、山梨県下にフットパス 170 コースを作り、170 種のガイドブックを自主制作。

第１回講師　笹本氏

第３回講師　曽根原氏

２．【県民コミュニティカレッジ】

1. 地域ベース講座：「東日本大震災後の社会と日本を考える」（全５回）

（１）趣旨：これからのわが国あるべき姿を今一度見直す契機と、震災やエネルギー問題から学ぶ地域からの新たな視点を福祉、看護、経済社会などの本学教員を中心とした研究者が地域に向けて提言します。

（２）日時：表参照

（３）場所：山梨県立大学Ａ館サテライト教室

（４）講師：表参照

（５）実施状況：第一回 16 名、第二回 15 名、第三回 12 名、第四回 22 名、第五回 12 名

● 第一回　11 月 12 日（土）14：00-16：00 林辺　正治氏（特定非営利活動法人甲斐のめぐみ理事） テーマ：「山梨発の震災ボランティア活動で見えてきたこと」
● 第二回　11 月 19 日（土）14：00-16：00 城戸口　親史氏　（山梨県立大学看護学部講師） テーマ：「災害時の感染予防対策について」
● 第三回　12 月 3 日（土）14：00-16：00 二宮　浩輔（山梨県立大国際政策学部准教授） テーマ：「東日本大震災に見るエネルギーシフトの可能性 -地域経済論的視点からの考察-」
● 第四回　12 月 10 日（土）14：00-16：00 西澤　哲（山梨県立大学人間福祉学部教授） テーマ：「震災によるストレスと心理的ケア」
● 第五回　12 月 17 日（土）14：00-16：00 山本　武信（山梨県立大国際政策学部教授） テーマ：「現代文明と震災・原発事故 -大量消費・大量生産がもたらしたもの-」

（文責：澁谷　彰久）

林辺正治講師

二宮浩輔講師

３．【地域連携講座】

1. 「在住外国人のための日本語講座」（全 21 回）（山梨県立大学・甲府市・ソリダリダー日本語教室）

（１）内容：在住外国人を対象とした日本語講座（初級・中級)。文法・文型学習、ひらがな・カタカナ（初級)、漢字学習（中級）

（２）日程：下表参照

（３）時間：1：00～3：00

（４）場所：山梨県立大学サテライト教室・研修室

（５）講師等：小林信子（ユニタス日本語学校非常勤講師)、ソリダリダー日本語教室講師、ボランティアなど

（６）実施状況：受講者数　初級７名、中級５名

（文責：安藤　淑子）

回	開催日	初級	中級
1.	５月15日	職場について話す	
2.	５月22日	出身地を紹介する	
3.	５月29日	旅行の思い出を話す	
4.	６月５日	にほんごつぎの45じかん16課	ペアで覚えるいろいろなことば22課
5.	６月12日	にほんごつぎの45じかん16課	ペアで覚えるいろいろなことば22課
6.	６月19日	にほんごつぎの45じかん17課	ペアで覚えるいろいろなことば23課
7.	６月26日	にほんごつぎの45じかん17課	ペアで覚えるいろいろなことば23課
8.	10月２日	にほんごつぎの45じかん18課	ペアで覚えるいろいろなことば24課
9.	10月９日	にほんごつぎの45じかん18課	ペアで覚えるいろいろなことば24課
10.	10月16日	にほんごつぎの45じかん19課	ペアで覚えるいろいろなことば25課
11.	10月23日	にほんごつぎの45じかん19課	ペアで覚えるいろいろなことば25課

12.	10月30日	にほんごつぎの45じかん20課	ペアで覚えるいろいろなことば26課
13.	11月13日	にほんごつぎの45じかん20課	ペアで覚えるいろいろなことば26課
14.	11月20日	にほんごつぎの45じかん21課	ペアで覚えるいろいろなことば27課
15.	12月4日	にほんごつぎの45じかん21課	ペアで覚えるいろいろなことば27課
16.	12月11日	にほんごつぎの45じかん22課	ペアで覚えるいろいろなことば28課
17.	12月18日	にほんごつぎの45じかん22課	ペアで覚えるいろいろなことば28課
18.	1月22日	にほんごつぎの45じかん23課	ペアで覚えるいろいろなことば29課
19.	1月29日	にほんごつぎの45じかん23課	ペアで覚えるいろいろなことば29課
20.	2月5日	にほんごつぎの45じかん24課	ペアで覚えるいろいろなことば30課
21.	2月19日	にほんごつぎの45じかん24課	ペアで覚えるいろいろなことば30課

2. 幼児教育センター講座

人間福祉学部では1歳3ヶ月～2歳児・2歳児コースを担当し、中央部幼児教育センター、北部幼児教育センターの2か所で全15回を行いました。（表2参照）

内容は、教員が講師を務める講座と、学生たちが参加する交流企画の大きく2つのタイプに分かれます。教員が講師を務める講座では、それぞれ専門ジャンルの異なる教員がその専門性を活かし、研究で得た知見をわかりやすく、親しみやすくお伝えするよう心がけています。様々な情報や体験の共有から、日常生活の中での楽しい子育てのヒントを見出していただければと願っております。もうひとつの学生たちが参加する交流企画では、毎年、1年生は自作の遊具を持ち込み、初めての子育て支援活動に取り組みます。また2年生は劇発表を中心に、1時間の子育て支援活動を企画します。学生たちは試行錯誤を繰り返しながら事前準備をして当日に臨みますが、現場での子どもたちの反応は予想外なこともあります。そんな実際の子どもの様子から多くのことを学び、保育者になる責任やややりがいを大いに感じているようです。

今後も子育て支援活動に対して教員も学生も積極的に関わり、地域の方々に少しでも貢献できればと思っております。

（文責：古屋祥子）

おもちゃで遊ぶ子どもの様子から学ぶ学生たち　（第2期　「一緒に遊ぼう」　北部）

表２　平成 23 年度甲府市幼児教育センター　月齢別講座一覧（人間福祉学部担当）

1歳3ヶ月～2歳児		中央部	北部	
	日程	テーマ・講師	日程	テーマ・講師
第１期	7 月 1 日	「親子で手遊び」 樋口　しずか 非常勤講師	6 月 24 日	「動きで親子コミュニケーション」 高野牧子准教授
第２期	10月 21 日	「動きで親子コミュニケーション」 高野牧子准教授	10 月 28 日	「ようこそ宇宙船地球号へ：国際人への第一歩」　山田千明教授
第３期	2 月 3 日	「ようこそ宇宙船地球号へ：国際人への第一歩」　山田千明教授	1 月 20 日	「わからずやさんとつきあうために」 池田政子教授
2歳児				
第１期	6 月 22 日	「音であそぼう」 沢登芙美子教授	6 月 22 日	「子どもの安全を考える」 堀井啓幸教授
	6 月 29 日	「勇気づけの子育て―2 歳児、初めてのジャンプをどう生かす？－」 坂本玲子教授		
第２期	10月 19 日	「家庭における食育」 鳥居美佳子講師		
	10月 26 日	「一緒に遊ぼう」人間形成学科 1 年 引率：池田充裕准教授	10 月 26 日	「一緒に遊ぼう」人間形成学科 1 年 引率：堀井教授、古屋講師
第３期	1 月 18 日	「手を使う造形遊び」 古屋祥子講師		
	1 月 25 日	「劇遊び発表会」人間形成学科 2 年 引率：池田充裕准教授、高野准教授	1 月 25 日	「劇遊び発表会」人間形成学科 2 年 引率：沢登　芙美子　教授、　古屋講師

看護学部の教員が担当している月齢別講座は、3 ヶ月から 1 歳 3 か月のお子さんをもつお母さんを対象にして、「育児の気がかり」の相談を行っています。この相談では、「こんなこと相談していいの？！」「どこに相談してよいかわからない！」といったことを気軽に相談できるように心がけています。例えば、「離乳食を食べ過ぎるけど？どれくらいやっていいの？」「いたずらをしたとき、怒っても大丈夫？」「母乳はいつまでやっていいの？」といった内容です。毎回積極的に質問され、予定時間を過ぎることもあります。

お母さん方は、自分のお子様の様子だけでなく、他のお子様が遊んでいる様子などに接することで、

発達の個人差を受け止める機会にもなっているようです。また「困っているのは私だけ？」と思っていたけれど、「みんな同じなんだ！」と孤独感の解消にもなっているようです。

お母さん方の子育てに対する不安が軽減し、笑顔で子育てが楽しめるようなお手伝いができればと、4名の教員で日程調整をしながら講師を努めさせていただいています。この講座をきっかけにして、些細なことでも相談できるお母様同士のお友達の輪が広がり深まることを願っています。

【8ヶ月～1歳3ヶ月未満児講座】（撮影：中部幼児教育センター）

“教員は、どこにいるでしょう？！・・・”

表１　平成23年度甲府市幼児教育センター　月齢別講座一覧（看護学部担当）

●3～8ヵ月未満児　（木曜日 10:30～11:30）

日 程		中央部		日 程		北 部		日 程		中道アネシス	
第1期	6月23日	育児の気がかり	井上	第1期	6月30日	育児の気がかり	茂手木	第1期	7月7日	育児の気がかり	茂手木
第2期	10月27日	育児の気がかり	大久保	第2期	10月27日	育児の気がかり	茂手木	第2期	10月20日	育児の気がかり	大久保
第3期	2月2日	育児の気がかり	大久保	第3期	2月2日	育児の気がかり	茂手木				

●8～1歳3ヵ月未満児　（火曜日 10:30～11:30）

日 程		中央部		日 程		北 部		日 程		中道アネシス	
第1期	6月21日	育児の気がかり	井上	第1期	7月12日	育児の気がかり	田淵	第1期	7月5日	育児の気がかり	井上
第2期	10月25日	育児の気がかり	井上	第2期	11月1日	育児の気がかり	田淵	第2期	11月1日	育児の気がかり	井上
第3期	1月24日	育児の気がかり	井上	第3期	1月24日	育児の気がかり	田淵	第3期	1月31日	育児の気がかり	田淵

3. 子育て食育講座（第２回）

1. テーマ：子どもと一緒に野菜を美味しく食べるパーティーメニュー
2. 日時：2011年7月6日（水）10：00～12：30
3. 会場：山梨県立大学　飯田キャンパス・調理実習室
4. 共催：進徳幼稚園

5.　対象者・参加者数：総計　63 名（内訳）学外者 49 名、学生 13 名、学科教員 1 名

6.　講師：山梨県立大学人間福祉学部人間形成学科　講師　鳥居美佳子

7.　実施内容：

1)　講義：子どもと野菜の栄養学、野菜の美味しさを引き出すポイント

2)　調理実習：子どもと一緒に野菜を美味しく食べるパーティーメニュー①生春巻き②フォー・ガー③バーニャカウダ④野菜おやき⑤グレープフルーツ・ジュレ

3)　試食・考察

8.　参加者の声：

1)　感想・意見（自由記述より）…野菜をたくさん使えてよかったです／普段のマンネリメニューから脱出できそうです。子どもたちと一緒に混ぜたり巻いたりできそうで、楽しめそうです。講義も今まで気づかなかったことに気づき、勉強になりました／普段作ることのないメニューで、大変参考になりました。作ってみると案外簡単に作れることができるものですね。ちょっとしたコツがとても大切で、時間短縮につながるのですね／野菜が盛りだくさんで、なのに、食べやすく、家で子どもに作ってあげたい内容でした／どれもおいしくできて満足です。生春巻きは大人向きの味だったので、チリソースではなく、子どもも食べられるソースがあるとうれしいです。生野菜も大人が進んで食べれば子どもの興味が持てるということが学べてよかったです／一緒に作る楽しさを親子でいっぱい経験して食育につなげたいです／自宅にある食材でもう少し簡単にできるとよかったです。バーニャカウダは少し難しいと思いました／メニューの量が多かった。簡単に作れるメニューも 1 品入れて欲しかった。

2)　今後の「子育て食育講座」に対する要望…お弁当のおかず（2）／県外出身なので、山梨郷土料理も知りたいです／子どもと一緒に作れる簡単な料理／簡単に栄養満点朝ごはんメニュー（朝ごはんをなかなか食べてくれないので…）／日本の食を海外に紹介するための簡単に作れるメニュー

9.　まとめ

昨年度に実施した「第 1 回子育て食育講座」の参加者の要望でもあった「幼児と保護者一緒の調理実習」を本学人間形成学科 3 年「子どもと食育」履修生の協力を得て、実施することができました。しかし、参加者の希望を可能な限り取り入れて企画した結果、実習内容のボリュームが多くなり、予想以上に調理に時間がかかってしまいました。今後は、テーマの的を絞ってコンパクトな企画を提案し、参加者の満足度の高い講座を提供できるよう取り組んでいきたいと思います。

（文責：鳥居美佳子）

4. 子育て支援リーダー養成講座（山梨県教育庁社会教育課）

（1）趣旨：平成 22 年度より 3 か年事業として山梨県教育委員会が主催し、山梨県立大学が実施機関となり、今年度、2 年目を迎えた。地域ぐるみの子育てを実現するために、子育てに関わ

る現代的な課題についてワークショップ形式を用いて臨床的に解決していく研修を行い、地域の家庭教育・子育て支援のリーダーとして活動できる人材を養成することを目的としている。

（２）日時：下表１参照

（３）場所：山梨県立大学Ａ館サテライト教室、Ｂ館講堂、県内教育事務所（第５回）

（４）講師：下表参照

（５）実施状況：今年度は修了者 57 名であった。講義を受動的に聞くだけではなく、小グループで地域の課題を検討し、協働して企画運営していくことで、受講者同士がネットワークを形成する機会となり、その点が大変ユニークな講座である。受講者の感想では「毎回の講演が充実していて、とてもよかったです。更に、今後の何かにつながる仲間づくりができたことが大きいです」（民間子育て関連）。「これからの子育て支援に役に立つことばかりか、私自身が親としても気づかされスッテプアップできるものばかりでした」（子育て支援センター職員）。「講座の中では、講義とワークショップとバラエティに富んでいてあきることなく勉強が出来ました」（子育てＮＰＯ法人）など、大変有意義だったという感想が多数寄せられた。他県にはない子育て支援者の養成講座であり、地域の子育て支援リーダーとして大きな役割を果たしていただくことを期待している。

表１　平成２３年度　子育て支援リーダー養成講座日程及び内容

回	日　程	内　　容	講師（所属）
1	6 月 24 日（金）テーマ「子育て支援の歩みと課題」		
	①講演「山梨の子育て支援の歩みと課題」～やまなし親学習プログラム活用～		池田政子教授（山梨県立大学）
			藤森晴江氏（都留市家庭教育支援チーム）
	②ワークショップ「地域子育て支援者交流会にむけて（１）」		池田政子教授・高野牧子准教授（山梨県立大学）
2	7 月 8 日（金）テーマ「子どもの健康を守り育てる」		
	①ワークショップ「動いて遊んでからだづくり」		高野牧子准教授（山梨県立大学）
	②講演「子どもの健康を守り育てる～食育をとおして～」		鳥居美佳子講師（山梨県立大学）
	③ワークショップ「地域子育て支援者交流会にむけて（２）」		高野牧子准教授（山梨県立大学）
3	7 月 22 日（金）テーマ「虐待予防と対応策」		
	①講演「子どものＳＯＳを受けとめるには。」		藤森雅恵氏(都留児童相談所児童虐待対策幹)
	②ワークショップ（講演に対しての質疑･応答など）		池田政子教授（山梨県立大学）
	③ワークショップ「地域子育て支援者交流会にむけて（３）」		池田政子教授（山梨県立大学）

4	8 月 9 日（火）公開講座　テーマ「地域でつながる子育て支援」	
	①地域子育て支援者交流会の準備 ワークショップ（4）	高野牧子准教授（山梨県立大学）
	②受講者交流会	
	③講演「ともに生きる街づくりをめざして」	岩川直樹氏 （埼玉大学教育学部教授）
	④シンポジウム 司会　池田政子山梨県立大学教授	シンポジスト
		渡辺昭一氏（富士河口湖町政策局）
		小西貴士氏（キープ森のようちえんプロジェクト）
		角田　恵氏（御坂児童センター長）
5	8～9 月	地域子育て支援者交流会
		（参加者：市町村子育て支援担当者・受講者・教育事務所職員・事務局　他）
6	9 月 22 日（木）テーマ「多様な子どもへの支援」	
	①講演「発達障がいとそのスペクトラムの子どもへの支援」	川池智子准教授（山梨県立大学）
	②ワークショップ	
	③ワークショップ　「地域子育て支援者交流会まとめ（5）」	高野牧子准教授（山梨県立大学）
7	10 月 21 日（金）テーマ「子育て支援リーダーの役割」	
	①講演「支援の原点の再確認 －“関係づくり”ということを軸に」	汐見稔幸学長（白梅学園大学）
	②報告会　「地域子育て支援者交流会報告会」	池田政子教授・高野牧子准教授 （山梨県立大学）

（文責：高野牧子）

5. 平成 23 年度地域子育て創生事業

（1）趣旨：富士河口湖町と山梨県立大学連携講座である「地域子育て創生事業」であり、その目的は地域の子育て支援事業の従事者のスキルアップを図ると共に、子どもたちの健全育成に貢献できる人材養成のために講座を行い、実際に地域で活躍できる人材を養成することにある。対象者は各回定員 30 名（前年度受講者、子育て支援経験者）、公開講座のみ定員

300 名（一般の方も参加可）とし、地域で子育て支援や保育に従事していらっしゃる方々とする。

（２）日時：下表２参照

（３）場所：富士河口湖町子ども未来創造館（音楽スタジオ）
富士河口湖町中央公民館（第 6 回）
勝山さくやホール(第 7 回)

（４）講座内容および講師：下表参照

（５）実施状況：第 1 回から第 6 回までの受講者延べ人数は 181 名、公開講座 136 名であり、有意義な講座内容だったという感想が多く寄せられた。また、複数回に亘って同一テーマを受講し、もっと深い内容も受講したいとの積極的ご意見もいただいた。

表２　平成 23 年度地域子育て創生事業　講座内容

	日　時	テーマ	内　容	講　師（専門）
1	9 月 16 日（金） 13:30～15:30	「子どもから学ぶ音楽表現」	《ワークショップ》 言葉から音楽への展開の実際を聴きながら、子どもの創作過程を探ります	山梨県立大学 教授 沢登芙美子氏 （ピアノ実技・音楽表現）
2	9 月 20 日（火） 13:30～15:30	「心をつなぐコミュニケーション」	《講座・ワークショップ》 子どもと親、親と支援者をつなぐコミュニケーションについて、ワークショップ形式で学びます	山梨県立大学 教授　池田政子氏 （心理学・ｼﾞｪﾝﾀﾞｰ問題）
3	10 月 7 日（金） 13:30～15:30	「子どもの身体表現」	《講座・ワークショップ》 様々な身体表現活動を楽しく体験しながら、“からだ”でかかわりあう大切さを考えます。	山梨県立大学 准教授　高野牧子氏 （舞踊教育学・体育）
4	10 月 24 日（月） 13:30～15:30	「子どもと美術」	《講座・ワークショップ》 描画や造形活動による教育的効果について学び、様々な美術教育のあり方について考えます	山梨県立大学 講師　古屋　祥子氏 （彫刻制作・美術教育）
5	11 月 1 日（火） 13:30～15:30	「脳と心を元気に育てる」	《講座・ワークショップ》 現代の若い人々の脳の特徴、子どもの発達の仕方の変化や問題について理解し、どのようにしたら脳と心を健やかに柔らかく育てていけるか、提案していきます	山梨県立大学 教授　坂本玲子氏 （精神医学・精神保健）
6	11 月 18 日（金） 13:30～15:30	「子どもと家族の食生活支援」	《講座・ワークショップ》 子育て世帯の食生活支援方法を「簡単･健康･美味しいメニュー」の調理･試食を通して習得します	山梨県立大学 講師　鳥居美佳子氏 （栄養学、管理栄養士）
7	12 月 6 日（火） 13:30～15:00	「子育てのコラボレーション」	《公開講座》 子ども達が健やかに成長するために必要な事を学び考えます	お茶の水女子大学大学院 准教授　青木紀久代氏 （臨床心理学、発達心理学）

（文責：高野牧子）

４．【学部共催講座】

1．「日本語指導者養成講座（基礎編）」（全９回）（山梨県立大学・文化庁委託講座）

（１）内容：日本在住歴が長く日本語能力が一定水準以上の外国人を対象とした日本語教師養成講座。日本語の構造に関する基礎知識を身に着けるとともに、日本語教育の現場で指導できる実践力を身に着ける。

（２）期間：2011 年 12 月 11 日～2012 年 3 月 4 日

（３）場所：山梨県立大学Ａ601 教室、サテライト教室

（４）日程等：下表参照

（５）講師：下表参照

（６）受講者：定員 20 名

（７）その他：保育あり、修了書（全回出席者）

（文責：安藤　淑子）

回	開催日	時間	内容
1	12月11日(日)	1:30−4:00	開講式、オリエンテーション 「日本語の文法１」講師・安藤淑子（山梨県立大学）
2	12月18日(日)	2:00−4:00	「日本語の文法２」講師・安藤淑子
3	1月22日（日）	2:00−4:00	「さあ、ここから文化を発信しましょう！」講師・山田千明（山梨県立大学）
4	1月29日（日）	2:00−4:00	「日本語の文法３」、「日本語の音声」講師・安藤淑子
5	2月5日（日）	2:00−4:00	「言葉と文化～山梨の方言と文化」講師・秋山洋一（山梨県立大学）
6	2月12日（日）	2:00−4:00	「日本語の文字・表記」、「日本語の語彙」講師・安藤淑子
7	2月18日（土）	2:00−4:00	「日本語の教材」、「日本語教授法」講師・安藤淑子
8	3月3日（土）	1:00−4:00	「日本語指導の実際（実習準備）」講師：原田かおり
9	3月4日（日）	1:00−4:00	実習発表会、修了式、意見交換会

2. 「ソーシャルワーカー　リカレント講座 2011」（全２回）

（１）趣旨：山梨県内の社会福祉専門職への地域貢献をめざす講座として毎年開催している。本年度は、社会福祉の利用者のニーズを把握するためのツールとしてのソフトの使い方の講座を実施した。

（２）対象：県内社会福祉専門職、社会福祉をめざす大学生

（３）日時：下表参照

（４）場所：山梨県立大学Ａ館５階コール教室

（５）受講者数　第１回２０名、第２回 18 名

◆第一回　１０月１５日（土）13：00-16：30
演題：「アンケート集計・図表がすばやいＳＰＳＳ入門」 講師：米山宗久氏（甲斐市社会福祉協議会）
◆第二回　１０月２２日（土）13：00-16：30
演題：自由記述集計の最新ツール　ワードマイナー入門」 講師：保田明夫氏（(株）富士通エフ・アイ・ピー・システムズ）

（文責：川池　智子）

3. 第５回子育て支援フォーラム

「 子どもたちへの“美の伝承”を考える

―子育て環境に対する彫刻家の姿勢を通して――」

□目的：子育て中の親とそれを支援する人々、支援者になる学生等に、子育て支援について考える場を

提供することにより、本県の保育・幼児教育の質の向上を図る。19～22 年度に引き続き、第 5 回を開催する。

□対象：子育て中の方、子育て支援関係者、保育／教育関係者、学生、その他

□主催：人間福祉学部人間形成学科

□共催：山梨県立大学地域研究交流センター

□日程：2011 年 1 月 28 日（土）午後 2 時～４時半

□会場：山梨県立大学　飯田キャンパス　B 館 120 教室、
B 館 215 教室（託児）

■講師：斉藤純夫氏　彫刻家

■内容：前半は、大人が子どもに与えることができる環境や美意識について、制作された公共彫刻の制作秘話を交え講演いただき、後半は子どもをモチーフにアートメダルを作るワークショップを行った。

■講座担当：学科教員全員、　司会：古屋祥子

■受講者：31 名（子育て当事者、幼稚園・保育所関係者、教育関係者ほか学外者 10 名、学生:15 名、学科教員:6 名）

＜受講感想の自由記述より＞

美学という視点を改めて知ったような気がします。良し悪しばかりの視点ではなく、美学という考え方は意外と幼児教育では大切ではないかと思います。芸術家の視点――わが子が一人歩きをすることを楽しみにする。自主性を大切にする上で、大切な心構えかもしれません。／普段使用している素材ではないものに触れられたので、とても勉強になりました。講師の方のお話もとても興味深いものであり、教育に携わる中で、改めて子どもたちに“美”を伝承していかなくてはならないと思いました。／託児があるのが良かったです。参加できて、大変有意義な時間がすごせました。日々の育児の中で考えることさえできなかった、子育て、美、という点を斉藤先生のお話を通して考えさせられました。／短時間でしたが、初めて体験して、無言で集中してしまいました。子どもたちが、こんな風に夢中に取り組める環境づくりができたらと、改めて思いました。ワクワク楽しい体験をたくさんして、美に心が動く感覚を、子どもたちと養っていけたらと思います。　（文責：古屋祥子）

4. 第５回保育リカレント講座
「母語の土台をしっかり築く　――幼児期からの外国語教育を考える」

□目的：現場の保育者・子育て支援者等に研修の場を提供することによって、本県の保育・幼児教育の質の向上を図る。19～22 年度に続き、第５回を開催。

□対象：幼稚園教諭・保育士・子育て支援者・本学学生・その他　（定員：100 名）

□主催：人間福祉学部人間形成学科
財団法人ラボ国際交流センター山梨ラボ・テューターの会

□共催：地域研究交流センター
□連携：山梨県私立幼稚園協会
□日程：2011 年 10 月 23 日（日）午後 1 時 30 分～3 時 30 分
□会場：山梨県立大学　飯田キャンパス　C 館 101 教室
■講師：内田伸子　お茶の水女子大学名誉教授・客員教授
■内容：講演と同時に受講者の子どもたちを対象に多文化理解の交流イベント「子どものひろば」（体育館）を実施。
■講座担当：学科教員全員、　司会：池田充裕
■参加人数：受講者：101 名（ラボ・テューターの会関係者、山梨県私立幼稚園協会 10 年研修該当者、県内保育所保育士、子育て支援関係者ほか学外者：71 名、学生：24 名、学科教員：６名）
「子どものひろば」参加者（3 歳～中学生）：49 名　　＜合計＞　150 名

参加者アンケート回答者７６名のうち、「とてもよかった」58 名（76.3%）、「よかった」13 名（17.1%）と、受講者の満足度は非常に高かった。
＜受講感想の自由記述より＞
とても分かりやすい内容でした。3 歳児クラスの担任をしていて、英会話を習うべきか相談もされます。今、この幼児期にしなければならないことを自分の中でしっかりできてよかったです。／科学的なデータ、実際の子どもたちの様子に基づいた説得力のあるお話でした。／年長の息子が 4 月から小学校に入学するので、英語学習について、不安がありました。母語をしっかり学習させたいと思います。／とても勉強になりました。母語がいかに大切かということがわかりました。想像力が豊かになるように子どもたちと楽しい会話の時間を増していきたいと思いました。／私子どもを育てる上で大切なことを学びました。普段の家庭での会話の重要性も再確認しました。／いつも子どもをせかし、強制的・命令的になってしまっていることを反省する機会となりました。／本当に楽しく、また興味深く考えることができ、有意義な時間を過ごせました。／今までの考えをガラリと変えることができました。
（文責：池田政子）

5. 学部講演会

「人間福祉学部フォーラム」

テーマ　つながりあう福祉社会を求めて
第 2 弾　福祉・保育専門職として何をどう学ぶ

（1）趣旨：山梨県内の社会福祉専門職（保育を含む）と社会福祉・保育を目指す学生がともに語り合う、なかで参画型フォーラム。議論を通して、山梨の福祉・保育のあり方を考える。

（2）対象：県内社会福祉専門職、社会福祉をめざす大学生、一般
（3）日時：2012 年 1 月 25 日　18：10〜20：4
（4）場所：山梨県立大学飯田キャンパス講堂
（5）登壇者

パネラー

渡辺典子（社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士・圏域マネージャー）、渡辺光美（健康安全郷育アドバイザー、元小学校・幼稚園教員）、下村幸仁（人間福祉学部福祉教授）緒崎智美、神宮字 恭平（人間福祉学部人間形成学科学生）

山本智史　小松晴花（人間福祉学部福祉コミュニティ学科学生）

モデレーター

川池智子（人間福祉学部福祉准教授）遠山勇気、片田綾子（人間福祉学部福祉コミュニティ学科学生）

（6）参加者数　75 名
（7）報告書についてこのシリーズは人間福祉学部紀要に掲載する予定である。

シリーズ第 1 回については　すでに　人間福祉学部 2011 年度紀要に掲載した。

（文責：川池　智子）

6.「健康講座」（看護学部）

（1）テーマ:「認知症の正しい理解と介護について－地域で認知症の方を支える活動を通じて－」
（2）対象：地域住民、県立大学学生および教職員
（3）日時：2011 年 11 月 12 日（土）14：00-16：00
（4）場所：山梨県立大学池田キャンパス 201 講義室
（5）講師：NPO 法人「やじろべー」代表　中澤純一氏
（6）実施状況：受講者数：53 名

本講座では、昨年度のアンケートで「高齢化、介護」に関する内容の希望が高かったことを踏まえ講師を選定した。宅老所の介護の現場に身を置く傍ら、患者・家族の悩みに耳を傾け、介護に関わる家族を一つにしていく手助けと認知症患者が安心して暮らせる環境作り、社会教育に尽力している講師をお願いし、健康講座を実施した。

講演では認知症の予防は可能か、認知症に特有の物忘れのメカニズムについての説明や介護者の思い・認知症の方の思いを実際の認知症の方の語りの DVD から紹介をいただいた。そして専門職として、困難を取り除くのではなく、介護者が介護をやり抜く中で人間的な深さや力強さを深めていくことができるように側面から支援していくことの重要性について示唆を得た。ご自身で取り組まれている活動についても話していただいた。

当日の参加者からは「とても素晴らしい講演で、私の考えも少し変わりました。困難を取り除くことばかり考えず、困難を乗り越えるために側面から支援することが大切であるというお話が心に残りました」「専門職として頭をガツンとされた」など認知症の支援をしている専門職の方からのコメントが多く寄せられ、アンケート結果においても、アンケートに回答していただいた 40

名の内 40 名(100%)から「大変面白かった・面白かった」という回答が得られた。

（文責：五味　千帆）

講演風景

地 域 研 究 部 門

1. 部門事業の概要

地域研究交流センター（以下センター）では、地域が抱えるさまざまな課題の解決および地域文化の発掘・継承に向けて研究事業を実施しており、研究事業にはプロジェクト研究事業と共同研究事業がある。本部門では、これらの事業の企画や事業の発展に向けた研究の募集、センター運営会議において協議する必要がある手続等の諸問題について資料準備、地域研究採択審議会の資料準備、研究代表者の予算執行、報告書の作成、報告会の準備等を実施した。

２．部門事業の実績と課題について

今年度は昨年の共同研究から発展したプロジェクト研究が新たに 1 題加わり、他の 3 題は昨年までのプロジェクト研究を発展させて取り組んだ４題のプロジェクト研究と、6 題の共同研究の合計 10 題の研究を支援してきた。それぞれに 3 学部の専門とする課題に関連した地域の課題を取り上げており、研究報告会の参加者も身近な課題であることから非常に興味をもって活発に意見交換がされた。その中で地域の現場や実情をよく分析し、机上の学問に終わらないで欲しい、また地域還元となる課題解決の知見の一端が見える研究になっていってほしいなどの励ましの意見も聞かれた。このような研究報告会をきっかけに地域の意見や課題を明らかにし、地域と密着し、地域を巻き込んだ研究が進められていくことを期待したい。

忙しい日々の教育活度の中で研究時間を捻出し、研究者間で協働し研究を行いまとめ、報告して下さった各研究の教員および共同研究者、研究協力者の方々に心よりお礼を申し上げます。

研究の概要

1. 【プロジェクト研究】

今年度のプロジェクト研究は、6 月センター運営委員会にて下記の 4 題（1）～（4）を指定し 7 月教授会で共同研究者を募集した。（1）については平成 21 年度共同研究事業で研究を開始し、平成 22 年度はより県産品産業の発展のためにセンターのプロジェクト研究として行われ、今年度もさらに発展した産業に進めるためのプログラム開発として、引き続きプロジェクト研究にふさわしいとして指定された。（2）については、平成 22 年度は共同研究事業として研究がされ今年度はさらに女性の健康のために、県土の 80%を占める山林を女性の健康にどう生かすかという観点でプロジェクト研究として指定した。（3）については、平成 21 年度以前から行われてきたプロジェクト研究として多方面から行われており、昨年度に引き続き今年度も県内に在住する外国人に対し大学としてどのようにかかわっていったらよいかという観点から、プロジェクト研究として継続して指定した。（4）については平成 21 年度よりプロジェクト研究として自殺予防教育について、今年度で 3 段目の積み重ねとして広く地域の青少年関係者と取り組んでいる観点からプロジェクト研究として指定した。

1）地域資源を活かしたビジネス展開の可能性について
－甲斐絹の伝承と発信のためのプログラム開発－

（1）研究目的

平成 23 年度も、「甲斐絹」の地域文化としての伝承のための教育プログラムを開発するとともに、地域あるいは国内でのビジネス展開、発信方法を検討し、「甲斐絹」すなわち地域資源を活かしたビジネス展開の可能性を探ることを目的として研究を進めた。

（2）研究活動

研究会を山梨県立大学で計 5 回、産官学のメンバーの出席により開催した。富士吉田河口湖高校において、平成 23 年 2 月 13 日～16 日に、土橋由紀教諭により 1 年生を対象に実施した。授業内容は甲斐絹座メンバーによる講義と甲斐絹によるティッシュケースの製作、および消費者教育の視点からのグループ活動であった。また、平成 22 年度の研究授業内容について、日本家庭科教育学会において公表した。

本学黒羽雅子教授ゼミ学生「あのひもすか」活動として、メモ帳の製作販売、および甲斐絹製品である「名刺入」の試作、文化祭における甲斐絹製品の展示を行った。平成 23 年 3 月に立ち上げた「合同会社飯田甲斐絹堂」の活動として、「甲斐絹名刺入」の販売を開始、平成 23 年度本学学位授与式における卒業生記念品として採用された。山梨県立大学、都留文科大学、甲府城西高校において、甲斐絹の知名度と印象についてアンケート調査を行い、このうち都留文科大学、甲府城西高校の集計結果および、平成 22 年度アンケート調査について分析した結果を本報告書に報告した。

研究活動内容について山梨地域研究交流センター2011 研究報告書として公表した。なお、平成 24 年 2 月「甲斐絹名刺入」は富士吉田商工会議所創立 60 周年記念事業「ふじよしだお土産品大賞」において奨励賞商品に選定された。

（３）担当者

研究代表者：斉藤秀子（人間福祉学部）

共同研究者：波木井昇（理事）、安達義通・黒羽雅子・箕浦一哉（国際政策学部）、五味武彦（理事）、志村結美（山梨大学教育人間科学部）、内藤裕利・古屋万恵（山梨県商工労働部産業支援課）、五十嵐哲也・渡辺誠（山梨県富士工業技術センター）、串田賢一（山梨県工業技術センター）、佐幸歌菜（山梨県農政部花き農水産課）、前田市郎・山崎泰洋・槙田則夫・田辺丈人（甲斐絹座）、黒羽雅子ゼミ学生（代表柳山菜摘）

２）森を活かした女性の健康プロモーション研究

（１）研究目的

2007 年 4 月「新健康フロンティア戦略（内閣府）」は、9 項目のヘルスプロモーション支援をあげ、その中でも女性を応援する健康プログラム（女性の健康力）は、思春期からマタニティ期、更年期へと女性の生涯を通した健康支援を重点施策として掲げている。「ヘルスプロモーション」は 1986 年のオタワ憲章以来、世界の健康増進の活動の潮流となっている。

女性が住みやすく活動できる環境は健康促進への基盤となる。内閣府の第 3 次男女共同参画基本計画では、活力ある農山村の実現に向けた男女共同参画の確立をあげ、農業人口の過半を占め、農業や地域の活性化で重要な役割を果たす女性の農業経営への参画、地域資源を活用した女性の起業等を推進している。本研究活動は、女性の健康を基盤に森の地域資源を活用し、生涯を通した女性のヘルスプロモーションへと拡げ、女性のウエルネスクラスターの可能性を探求する活動である。本研究の成果は、豊かな森の文化を健康基盤とするヘルスプロモーション活動（健康的な公共政策、健康を支援する環境、地域活動の強化、個人技術の開発、ヘルスサービスの方向転換）への活路を開くことを期待する。

（２）研究内容

2011 年度は『森の中で身体感覚を磨くプログラム』の 5 回を行った。さらに、東日本大震災後の八ヶ岳南麓の新たな共生社会の展望をテーマとして、「里山に暮らす人びとの健康と医療のあり方を考える」映画上映会を企画した。本研究活動は、今後も森の文化を共有する女性たちのゆるやかなネットワークの形成を通して、困難を抱えつつ暮らしている女性たちにより添えるよう取り組みたい。

（３）担当者

研究代表者：伏見正江（看護学部）

共同研究者：萩原結花・小尾栄子（看護学部）、草野香寿恵（北杜森林療法協議会環境省環境カウンセラー）、山本栄（Loop 研究所ヒーリングカウンセラー）、米倉弥生（米倉助産院）、山下貴美子（山梨県立中央病院）、跡部治賢（北杜市オオムラサキセンター館長）

３）多文化共生推進プロジェクト：保健・医療・福祉における大学・地域・行政の連携に向けて

（１）研究目的

山梨県内の日系定住外国人学校は、いずれも無認可校である。そのため学校保健安全法が適用されず、「日本の学校」では行わなければならない学校健診が全く行われていない。本研究は、民

間団体の行う日系定住外国人学校･託児所の児童･生徒への健診･健康相談会への実質的協力および研究的関りをとおして、1）外国籍の子どもたちの健康問題を明らかにするとともに、2）この保健活動を公的サービスにつなげていく方法を模索することを目的とした非収奪型・地域還元型の研究である。

（２）研究内容

2011 年度は､外国人学校 2 校､託児所 1 所に在籍する幼児･児童･生徒計 83 人を対象とした｡尿、回虫卵等の受検者は 74 人、健診･健康相談会の受診者数は 42 人であった。結果として、肥満、視力低下、乳幼児健診未受診、一部の予防接種の未接種などの傾向がみられた。子どもの健康を守るためには、学校側と協力し充実した学校健診を毎年行い、かつ健康教育をとおした親子の保健意識を啓発することが望まれる。一方、活動としては、市町から保健師の参加、民間医療機関の協力、医療に関わる他の市民団体の協力も得ることができ、官民学の連携が進んだといえる。今後、この連携を強化し活動を充実すると同時に、地域保健活動との接点のあり方を模索･検討する必要がある。

（３）担当者

研究代表者：長坂香織（看護学部）

共同研究者：佐藤悦子・百々雅子・名取初美・依田純子・泉宗美恵子・城戸口親史・須田由紀（看護学部）

研究協力者：植松清司（民医連事務局長）、杉浦春光（甲府共立病院副事務長）、永井敬二（甲府共立病院小児科医師）、田中久世（共立病院総看護師長）、角野加世子（甲府共立病院人間ドック・健診センター看護師長）、青木美和子（八田小学校養護教諭）、永井ミリアム（アルプス学園校長）、原田エリカ（フリースクールガリレウ校校長）

４）青少年を対象とした自殺予防教育の推進に関する研究３

（１）研究目的

今年度は、以下の 3 つの研究課題に取り組んだ。

1)青少年を取り巻く自殺の現状や教員を対象に実施した生徒・学生の自殺予防に関する、調査報告を聞いた参加者の反応を明らかにする。2)Ｂ高校生を対象に実施した自殺予防に関連した教育(100 分授業)の受講者の反応を明らかにする｡3)Ｃ高校生を対象に実施した自殺予防に関連した教育(45 分授業)の受講者の反応を明らかにする。

（２）研究内容

事後アンケートを用いて 3 段階評価とその理由を自由記述によりデータ収集した。分析は単純集計、カテゴリー化等であった。

結果：1)については、有効回答数は 24 人で、全員「参考になった」と回答し、11 カテゴリーが抽出された。2)については、有効回答数は 20 人で、全員「役に立ちそうだ」と回答し、10 カテゴリーが抽出された。3)については、有効回答数は 195 人で､「役に立ちそうだ」は 95.9%であった。これら回答の理由は､「自殺予防の対処法など、学んだことを身近な人や悩んでいる人に活用したい(関心・意欲)」が最も多かった。次いで、「自殺予防の対処法などが分かった・学んだ(知識・

理解)」、「自殺予防の対処法などを活用して、相談にのれそう・やってみよう(行為化への志向)」、「自殺を身近なこと・重要なことだと認識した(理解)」であった。これらより、生徒は本教育での学びを、知識・感想のレベルにとどめず、関心・意欲のレベル、行為化のレベルへと深化させていたことが分かった。一方、否定的な回答 4.1%の理由は、「回りに自殺をした人もいないし身近な事として考えられない」に代表された。

（3）担当者

研究代表者：清水惠子(看護学部)、

共同研究者：大塚ゆかり・山中達也(人間福祉学部）、岡部順子(保健センター）、
中山登（山梨県立甲府城西高等学校）

2. 【共同研究】

共同研究事業は、当センターが学内の教職員から募集する研究事業である。プロジェクト研究同様に、5 月の教授会にて募集し、選考委員会（6 月 30 日）にて下記の 6 件（1）～（6）が採択された。（1）（2）については昨年から引き続き、さらに発展させた研究として、センター機能に関連した重要な研究として採択された。（3）（4）（5）は今年度新たに取り組まれた大学の使命と地域の課題とに関連した貴重なテーマであることから採択された。（6）は山梨の特性を活かしたコミュニティビジネスの定着と発展を考える上での基礎研究として貴重な研究であるとして採択された。

1）大学と外国人学校を繋いだ遠隔日本語教育に関する研究
－指導方法の確立と教材化を目指して－

（1）研究目的

地域研究センターのプロジェクト研究として、2007 年より地域と大学を結んだ遠隔日本語教育を実施してきた。山梨県のような地方都市に在住する日本語学習者は、日本語教育機関が少ないこと、公共交通機関の利便性が低いこと等、様々な点において都市型の学習者と比べ日本語学習に困難を来すケースが見られる。こうした学習条件を改善する一つの方法として、テレビ電話システムを活用した遠隔日本語教育の実践研究を行うことにした。

（2）研究内容

今年度はこれまでの取り組みの集大成として「遠隔日本語教育」指導マニュアルを作成した。マニュアル作成によって、今後山梨県及び山梨県同様の課題を抱える地域において、遠隔日本語教育が教育手法の一つとして普及することを期待している。なお、マニュアルは、主として 2009 年から実施した外国人学校と山梨県立大学を繋いだ遠隔日本語教育より得られた知見に基づいている。マニュアル作成には、遠隔日本語教育に参加した学生が協力している。

（3）担当者

研究代表者：安藤淑子（国際政策学部）

共同研究者：川手ちなみ（南アルプス市国際交流協会日本語サロン)、
ミリアン　ナガイ（アルプス学園）

２）山梨企業の中国進出の動向と課題

（１）研究目的

最近、県内企業の中国進出が増えてきているが、中国経済の将来性や市場規模から見ればまだ十分とは言えない。また、これまで進出している企業はほとんど製造業に集中している。さらに、進出を考えたいが、そのノウハウを持っていない、あるいは国際ビジネスに対する不安などから躊躇している企業が多数あると思われる。本研究の目的は、山梨企業の中国進出の動向と課題を明らかにし、それを促進するために何をするべきかを考察することにある。

（２）研究内容

1) 中小企業の海外進出の動向

2) 山梨企業の中国進出

3) 中国進出山梨企業のケース・スタディー

―ＴＨＫの事例―

4) 日中両国の社会文化の違い及び日中関係の未来

（３）担当者

研究代表者：張兵（国際政策学部）

共同研究者：中村三郎(やまなし産業支援機構中小企業経営革新サポート事業サポート連携拠点)、紀廷許（北京聯合大学日本観光文化研究所)、久保田玲奈・外川生吹・幡野あずさ（山梨県立大学国際政策学部国際コミュニケーション学科）

３）若者との交流による地域高齢者の自己の役割認識と社会貢献の活性化に関する研究

（１）研究目的

若者との交流による地域高齢者の活動への満足度・心理状態・若者像の変化を把握し、看護専門職者を志す学生との交流が、現代の若者に対する高齢者の役割認識および社会貢献に対する意識の活性化に及ぼす効果を検証する。

（２）研究内容

過去 5 年間の成果を基盤に、今年度は大学周辺地域に在住する高齢者に、看護学生の学内演習に看護の対象者役として参加・協力するという内容で世代間交流事業を実施し、参加した 27 名を対象に、参加動機、満足度、事業前後の社会貢献に対する意識等を調査した。

対象者は、学生とたくさん話して世代間の相互理解を深めたいと考えて期待して事業に参加し、期待以上の満足感を得ていた。「年長者として知恵を伝授したい」は少なかったが、1/4 以上は「学生の学びをサポートしたい」と回答した。 高齢者と若者の世代間交流においては、相互の理解を深めることに加え、高齢者が年長者としての役割意識を持って臨める企画が必要であるが、本事業が居住地域内の大学の授業に協力という企画であったため、高齢者は身近なところで目的意識を持って学修する若者をサポートするという役割意識を抱いて交流し、高い満足度に繋がったと推察される。また、社会貢献に対する意識は事業後に高くなっている傾向にあり、本企画は高齢者が今後も引き受けたいと考える内容であった。本事業により、若者世代への高齢者の役割認識及び社会貢献に対する意識の活性化という効果が期待できることが示唆された。

（３）担当者

研究代表者:渡邊裕子（看護学部）

研究分担者:森田祐代・小山尚美・流石ゆり子・萩原理恵子（看護学部)、水口哲・依田良文（山梨県中北教育事務所）

研究協力者:保坂求・小池生次・大村重雄（甲府市池田地区長南自治会）

４）在宅ケアにおける専門職連携実践（IPW）推進に必要な実践能力に関する研究

－訪問看護師と介護支援専門員の連携の実態に焦点をあてて－

（１）研究目的

訪問看護師と介護支援専門員の連携に焦点をあてて、専門職連携実践（IPW）の実態を明らかにする。

（２）研究内容

山梨県訪問看護ステーション連絡協議会に所属する訪問看護師 266 名と山梨県介護支援専門員協会に所属する介護支援専門員 935 名を対象とし、先行研究で明らかにした連携に必要な要素【互いの専門性の理解】【情報の共有化】【チームケアの促進】【円滑なコミュニケーション】【信頼関係】を基に、IPW の推進に必要な実践力に関する項目で構成するアンケート調査を実施した。その結果、訪問看護師 246 人（回収率 92.5%)、介護支援専門員 343 人（回収率 36.7%）から回答が得られた。訪問看護師、介護支援専門員双方とも、連携において、互いの役割を理解し、円滑なコミュニケーションを図ることを意識するなど、積極的に連携を図ろうとしていることが明らかとなった。 一方で、連携に対する認識において双方が「情報共有のしにくさ」を感じていることが明らかとなったことから、チームケアの促進の障壁になる情報共有を困難にしている要因を今後、検討する必要があると考える。

（３）担当者

研究代表者：泉宗美恵

共同研究者：井出成美・依田純子・望月宗一郎・須田由紀・山北満哉・佐藤悦子（看護学部)、雨宮きよ子（山梨県訪問看護連絡協議会)、並木奈緒美 （山梨県介護支援専門員協会）

５）「支援の必要な子どもと家族」のニーズと地域支援ネットワークに関する研究

（１）研究目的

この研究の目的は、支援の必要な子どもの親を対象としたアンケートをもとに、その地域にあった支援のネットワークモデルを構築することにある。今年度は、親たちが、子どもを生み育てる中で受けた医療、保健、療育、保育、福祉等に「満足した内容」「不満足の内容」を具体的に明らかにすることを研究目的とした。

（２）研究内容と成果

今年度は、障がい児の幼児期の医療・福祉・教育等各種施策への満足度調査を実施した。まずはアンケートを山梨・長野の親の会と山梨の障害児福祉・教育の専門職と協働で作成した。分析

は親御さん、専門職の人たち、人間福祉学部学生の参画のもと行った。157 名からのデータの分析からは、満足度が高かったのは療育施設での療育、保育施設での保育であり、満足度が低かったのが、医療機関等における「障害の診断時の説明・フォロー」、乳幼児集団検診であった。具体的な自由記述からも多くの課題がみえてきた。自由記述のさらなる分析と課題の抽出を今後、継続していく。

（３）担当者

研究代表者：川池智子（人間福祉学部）

共同研究者：佐野ゆかり（人間福祉学部）、米山宗久（甲斐市社会福祉協議会）、二塚綾（甲府市社会福祉協議会）、溝呂木百合（山梨県立大学非常勤講師）、渡辺典子（富士北麓圏域圏域マネージャー・山梨県立大学非常勤講師）、保坂俊行（山梨県特別支援学校教員）、若林由希（山梨県内 地域療育コーディネーター）

共同研究グループ：あゆみ会、ジョリーくらぶ、ぽぽ、つばさの会、おひさまの会、プチトマト、いちごの会、つばさの会と連携する会

研究協力者：田中南・手島絵美里・ 山本悦子・緒崎智美・浅井芙美子・西山葵・金子由香利・小此木拓哉・中澤和奏・鈴木一美・芝草綾乃・田川朝美・水野なつみ・佐藤寿美花・保科ひかり・松下智佳（人間福祉学部学生）

６）山梨県のコミュニティビジネスのあり方に関する研究

（１）研究内容

まず、アンケート調査を用いて、山梨コミュニティビジネス推進協議会事業団体を対象に、山梨のコミュニティビジネスの現状及び課題を定量的に把握した。特に、組織形態、事業内容、事業規模、経営上の課題、必要としている支援などについて全体的な傾向をつかんだ。さらに、山梨県内でコミュニティビジネスを実施している団体を５つ抽出して、ヒアリング調査を行い、組織概要、事業内容はもとより当該団体が設立された背景・経緯、さらに直面している課題などについてより詳細に聞き取った。最後に、アンケート調査、ヒアリング調査の結果を踏まえて結論を導いた。

（２）研究成果

調査における重要なファインディングのひとつとして組織形態の２分化があげられる。つまり、NPO 法人などの法人格を持った団体と、個人事業、市民団体などのそうでない団体への分化である。２つ目のファインディングは、女性グループ、特に、主婦グループとコミュニティビジネスの親和性である。しかし、女性グループは、事業を行う上でイニシャルコストを捻出することが難しいため、行政がそれに対してどのように支援を行っていくべきか、重要な課題として浮上した。今回の研究では、「生きていく糧としてのコミュニティビジネス」のあり方を探ることができなかった。次回以降の研究テーマとしたい。

（３）担当者

研究代表者：安達義通（国際政策学部総合政策学科）、

共同研究者：箕浦一哉（国際政策学部総合政策学科）、池田政子・高野牧子（人間福祉学部人間形成学科）、曽根原久司・野澤智博・柴田京子（えがおつなげて、やまなしコミュニティ

ビジネス推進協議会幹事団体)、宮沢由佳（ＮＰＯ法人子育て支援センターちびっこうはうす、やまなしコミュニティビジネス推進協議会幹事団体)、渡辺光美（リズムオブラブ、やまなしコミュニティビジネス推進協議会幹事団体)

３．研究報告会

H22 年度の研究報告会が、「3.11 東日本大震災」の発生によって延期され、H23 年 5 月 18 日（水）18：00～20：30 に飯田キャンパス A 館 6 階サテライト教室及び 601 教室で行われた。プロジェクト研究 4 題、共同研究 7 題が発表された。総数で 30 名を超える参加があり、放課後の遅い時間まで活発な研究報告会となった。

今年度の研究報告会は、H24 年 3 月 23 日（金）13:30～18:00 に飯田キャンパス A 館 6 階サテライト教室および 601 教室の 2 会場で行われた。今年度は看護学部の特性に関連した研究が 5 題、国際政策学部および人間福祉学部に関連した研究が 5 題であったため、その特性毎に 2 会場に分かれて発表会を行った。各研究に関連した地域の方々が総数で 40 名以上参加し、地域の課題に密着した質疑応答が活発に行われた。発表時間 20 分、質疑応答 10 分で行ったが、質疑を時間超過のため打ち切らざるを得ない状況もあり、参加者からの鋭い意見など研究者らの今後の参考になる討議が熱心に行われ充実した報告会であった。

（文責　小林たつ子、張兵）

戦略開発部門

1. 部門事業の概要

2010 年度から、ＧＰ開発部門の業務を継承し、戦略開発部門を設置した。主たる事業は、外部資金の獲得や新規事業開発である。2011 年度の開発事業は、以下の 2 点である。

(1) 「授業開放講座」

①「授業開放講座」開催の意味

地域研究交流センターでは、生涯学習部門を設け、「春季」「コミュニティカレッジ」「専門職リカレント」「観光講座」など多くの一般向け講座を開設している。一方、他大学においては、一年を通した「教養的な生涯学習講座」を実施しているところもあるが、教職員数の少ない本学では、開設、運営することは困難であった。また、「地域と向き合う大学」として、いわゆる教養講座よりも、地域テーマを設定した企画することを優先させてきた。しかしながら、多様な講座を提供すること自身、地域のニーズがあることから、本年度後期から一般授業を社会人に公開する講座を開始した。

生涯学習が制度的に実現されるためには、学びたい人々に対して、いつでも学習の機会が提供されることが保証されなければならない。日本の大学は、諸外国に比べ、社会人入学の比率が極端に少なく、日本では大学が学習のゴールのように認識されている。大学の機能として、さらに社会に開かれる必要がある。しかし、実際のところ、学習ニーズのある社会人が入学するには、時間的経済的にも多くのハードルが残されている。この「授業開放講座」は、社会人の方に実際の授業を体験していただき、その可能性を広げるものと期待している。

②講座開催実績

前期期間に、実施規程の整備、開設講座の決定、募集要項の作成などを行い、8 月から募集を開始した。10 月からの後期授業を受講できるように開始した。最終的には、13 科目で募集し、9 科目で 12 名（実人数 11 名）が受講した。

社会人が出席することで、教員の授業内容の改善や学生の学習意欲の向上にもよい影響があったと考える。来年度は前期、後期とも開設し、さらに多くの方々に参加いただくと共に、受講しやすいものにしていきたい。

開講学部・共通科目	教科名	担当教員
国際政策学部	日本語の構造（音韻・文字）	二戸　麻砂彦
国際政策学部	行政法Ⅱ	小沢　典夫
国際政策学部	日本語教育方法論	安藤　淑子
国際政策学部	経営法務論	澁谷　彰久
国際政策学部	文化政策論	前澤　哲爾
国際政策学部	マスメディア論Ⅱ	前澤　哲爾
国際政策学部	演劇とコミュニケーション	伊藤ゆかり

人間福祉学部	障害児保育	川池　智子
人間福祉学部	対象理解Ⅱ（障害）	川池　智子
人間福祉学部	私たちの人生と障がい	川池　智子
人間福祉学部	ファミリーサポート論	池田政子・山田千明ほか
看護学部	母性看護学Ⅰ	名取　初美
全学共通科目	人間と思想（飯田クラス）	藤谷　秀

(2)　「やまなし映画祭」

①「やまなし映画祭」事務局の設置

「やまなし映画祭」は、平成 17 年から商工会議所が運営母体となって開催してきた。5 年間開催した後、商工会議所が撤退したため、やむを得ず平成 22 年度より事務局を大学が引き受けることとなった。それから２年間、地域研究交流センター内に事務局を設け、運営をしてきた。

全国には大学が 880 余りあるが、地域映画祭の事務局を担当する大学はない。本学は、学生・教職員共に多くの地域活動に積極的に参画している大学として、また甲府市との連携協定の事業の一環として、本映画祭に実施協力することとなった。

実行委員長には、昨年に引き続き、伊藤洋学長が就任した。

②「やまなし映画祭」の実績

3 日間の開催、6 つのプログラムで、総入場者数は 900 人（有料 377 人）であった。

10 月 23 日（日）写真映画『ヤーチャイカ』　覚和歌子・谷川俊太郎トーク 140 人

11 月 19 日（土）・映画『いつか来た道』: 180 人

映画『キングコング対ゴジラ』＆東宝特撮ファンミーティング：130 人

11 月 20 日（日）　『甲州戦記サクライザー★オムニバス』: 50 人

映画『サウダーヂ』富田克也監督トーク＆ライブ：300 人

ドキュメンタリー映画『きょうを守る』菅野結花監督トーク：100 人

③「やまなし映画祭」の成果

甲府市内の有識者で構成する実行委員会を 4 回開催すると共に、映画祭内容企画検討する「やまなし映画夢人」(顧問崔洋一)を 7 回開催した。予算 200 万円規模での実施で今までで最大の動員数 900 人を達成した。

チラシを 28000 枚印刷し、岡島 6000 枚、甲府市自治会組回覧 6600 枚、甲府市関係 2000 枚、山梨中央銀行 2000 枚、山梨県関係 2000 枚、山梨市 1000 枚、桔梗屋 1000 枚、図書館関係 1000 枚などに配布、ポスター200 枚は掲示（山梨交通バス 100 枚、甲府市関係 25 枚、山梨県関係 20 部他）した。マスコミ各社が今までになく好意的に報道し、確認できるもので新聞 4 紙 38 件、共同通信 2 件、テレビ 3 局 11 件あった。

④『きょうを守る』の制作と公開

映画祭最終上映の「きょうを守る」は、本学国際政策学部 3 年生、陸前高田出身の菅野結花さんの作品である。家族や知人友人を取材し、編集したものである。被災関係者の生の声が伝わってくる作品で、大きな反響を呼んだ。公開後各地からの上映要請があり、11 月～3 月に山梨、東京、群馬、神奈川、岡山、岩手、アメリカで 30 回以上上映され、2500 人以上がこの作品を見たこ

とになる。今後も上映が広がっており、また目下アメリカの大学で英語版制作中である。

2. 部門事業の実績と課題について

設置年度は、他の 4 部門と同じく部門長を置き、業務分担していたが、定期的継続的な取り組みではないので、2011 年度からセンター長が部門長を兼務し、必要に応じて運営委員会内で事業検討することにした。（文責：前澤哲爾）

事 務 局

１．運営委員会記録

１．第１回　平成２３年４月１９日（火）
　主な協議・報告事項：組織編成、予算、計画／大学案内のセンター紹介ページについて

２．第２回　平成２３年５月１０日（火）
　主な協議・報告事項：授業開放講座の要項等について／平成２３年度地域研究交流センター地域研究事業の募集について

３．第３回　平成２３年５月３１日（火）
　主な協議・報告事項：授業開放講座の要項等について／春期総合講座の開催報告とコミカレの実施について／地域研究事業の応募状況／センターウェブサイト

４．第４回　平成２３年６月２１日（火）
　主な協議・報告事項：授業開放講座の要項等について／共同・プロジェクト研究について

５．第５回　平成２３年７月１２日（火）
　主な協議・報告事項：授業開放講座について／共同研究選考委員会の報告／プロジェクト研究の予算配分／コミュニティカレッジのちらしについて

６．第６回　平成２３年８月２日（火）
　主な協議・報告事項：共同・プロジェクト研究の予算執行について／学部共催講座の予算について／ニューズレター14 号のイベント告知について

７．第７回　平成２３年１０月４日（火）
　主な協議・報告事項：プロジェクト研究等の予算執行の注意事項／やまなし地域女性史『聞き書き』プロジェクトの補助金の依頼について

８．第８回　平成２３年１１月１日（火）
　主な協議・報告事項：平成 23 年度公立大学法人山梨県立大学年度計画について／平成 24 年度前期授業開放講座の実施について

９．第９回　平成２３年１２月６日（火）
　主な協議・報告事項：平成 24 年度前期授業開放講座について／平成 24 年度地域研究交流センター予算案について／優秀学生支援プロジェクトについて

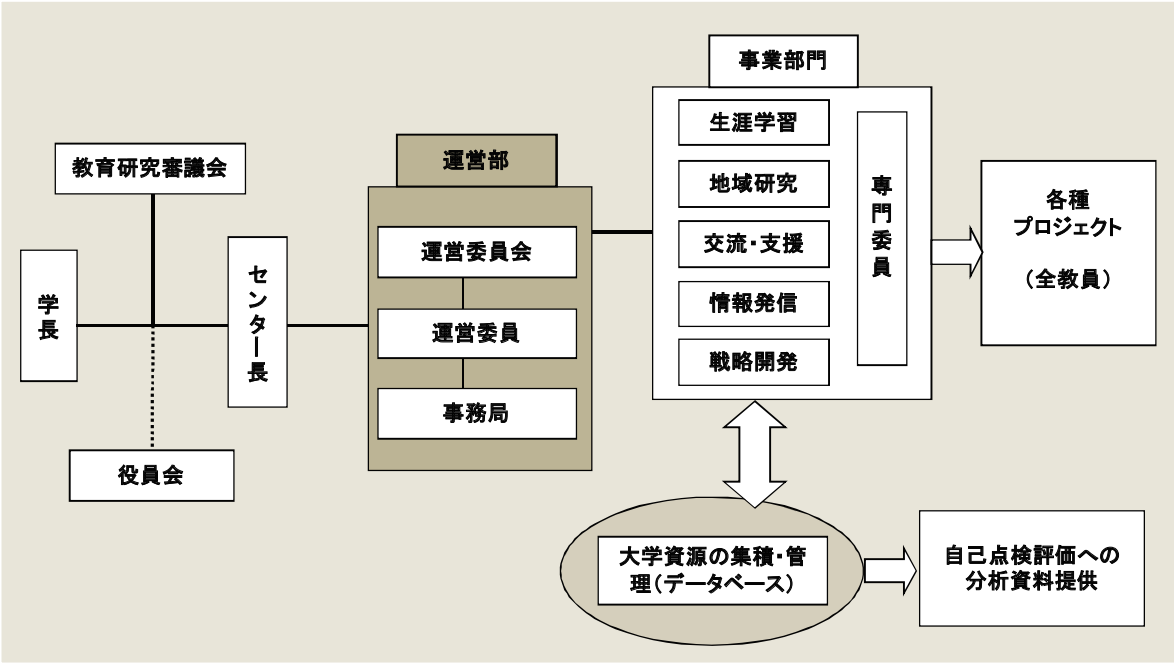
10．第 10 回　平成２４年１月１０日（火）
　主な協議・報告事項：学生表彰について／センター共同研究・プロジェクト研究の研究発表会について／学生優秀地域プロジェクトについて

11．第 11 回　平成２４年２月７日（火）
　主な協議・報告事項：平成２４年度公立大学法人山梨県立大学年度計画について／授業開放講座実施要項及び募集要項の改正について／

12．第 12 回　平成２４年３月７日（水）
　主な協議・報告事項：特任教員の選任について／来年度計画及び予算について／優秀学生表彰結果について

2. 組織図・委員名簿

(1)組織図



(2)委員名簿

		総合政策学科	国際コミュニケーション学科	福祉コミュニティ学科	人間形成学科	看護学科
地域研究交流センター運営委員会		澁谷 箕浦	前澤 張 吉田(均)	神山 川池 大塚	堀井	小林(た) 望月(宗)
事業部門（専門委員）	交流・支援	箕浦	〇吉田(均)	◎川池 柳田		渡邊(裕)
	情報発信	◎箕浦	平野	〇大塚	池田(充)	山田 大久保
	生涯学習	◎澁谷	安藤	神山	山田	〇望月(宗) 五味
	地域研究		〇張			◎小林
	戦略開発		◎前澤		〇堀井	
特別担当	看護・福祉専門職支援コーディネーター			下村		渡邊(裕)

運営委員は専門委員を兼務　◎部門長　〇副部門長

下線　運営委員以外の専門委員

3. 地域研究交流センター委員一覧

（運営委員　＊）

学部	学科	氏名	専門領域
国際政策学部	総合政策学科	澁谷彰久＊	民法・商法・金融取引法
		箕浦一哉＊	環境社会学
	国際コミュニケーション学科	前澤哲爾＊	メディア論（映像）
		吉田均＊	国際開発・国際協力
		張兵＊	中国史・中国経済・アジア事情
		安藤淑子	日本語教育
人間福祉学部	福祉コミュニティ学科	神山裕美＊	社会福祉援助技術論
		川池智子＊	社会福祉原論、児童・障害者福祉
		大塚ゆかり＊	精神保健福祉
		柳田正明	知的障害者福祉・地域生活支援
		下村幸仁	社会保障論
	人間形成学科	堀井啓幸＊	教育学・教育経営
		山田千明	幼児教育学・多文化保育
		池田充裕	教育学・比較教育
看護学部	看護学科	小林たつ子＊	基礎看護学
		望月宗一郎＊	地域看護学
		渡邊裕子	老年看護学
		大久保ひろ美	小児看護学
		五味千帆	基礎看護学
		山田光子	精神看護学

資料１．　年間の時系列記録

月日	事業・行事名	部門名
2011年4月19日	地域研究交流センター第1回運営委員会	
2011年5月9日	第1回交流・支援部門会議	交流・支援
2011年5月9日	第1回情報発信部門会議	情報発信
2011年5月10日	地域研究交流センターニューズレター「tobira」第13号発行	情報発信
2011年5月10日	地域研究交流センター第2回運営委員会	
2011年5月15日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2011年5月17日	第1回地域研究部門会議	地域研究
2011年5月18日	2010地域研究交流センター研究報告会	地域研究
2011年5月21日	春期総合講座　～最前線シリーズ～　第1回	生涯学習
2011年5月22日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2010年5月24日	第1回生涯学習部門会議	生涯学習
2011年5月28日	春期総合講座　～最前線シリーズ～　第2回	生涯学習
2011年5月29日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2011年5月31日	地域研究交流センター第3回運営委員会	
2011年5月31日	『2010年度山梨県立大学地域研究交流センター年報』発行	情報発信
2011年6月4日	春期総合講座　～最前線シリーズ～　第3回	生涯学習
2011年6月5日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2011年6月11日	観光講座第1回	生涯学習
2011年6月12日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2011年6月18日	観光講座第2回	生涯学習
2011年6月19日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2011年6月20日	第2回情報発信部門会議	情報発信
2011年6月21日	地域研究交流センター第4回運営委員会	
2011年6月21日	甲府市幼児教育センター月齢別講座（看護学部）	生涯学習

2011年6月22日	甲府市幼児教育センター月齢別講座（人間福祉学部）	生涯学習
2011年6月23日	甲府市幼児教育センター月齢別講座（看護学部）	生涯学習
2011年6月24日	子育て支援リーダー養成講座	生涯学習
2011年6月24日	甲府市幼児教育センター月齢別講座（人間福祉学部）	生涯学習
2011年6月26日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2011年6月29日	甲府市幼児教育センター月齢別講座（人間福祉学部）	生涯学習
2011年6月30日	甲府市幼児教育センター月齢別講座（看護学部）	生涯学習
2011年6月30日	共同研究選考委員会	
2011年7月1日	甲府市幼児教育センター月齢別講座（人間福祉学部）	生涯学習
2011年7月2日	観光講座第3回	生涯学習
2011年7月4日	第3回情報発信部門会議	情報発信
2011年7月5日	甲府市幼児教育センター月齢別講座（看護学部）	生涯学習
2011年7月6日	子育て食育講座	生涯学習
2011年7月7日	甲府市幼児教育センター月齢別講座（看護学部）	生涯学習
2011年7月8日	子育て支援リーダー養成講座	生涯学習
2011年7月9日	観光講座第4回	生涯学習
2011年7月11日	地域自治会との情報交換会	交流・支援
2011年7月12日	地域研究交流センター第5回運営委員会	
2011年7月12日	甲府市幼児教育センター月齢別講座（看護学部）	生涯学習
2011年7月22日	子育て支援リーダー養成講座	生涯学習
2011年7月22日	授業開放講座募集要項送付	
2011年7月25日	第4回情報発信部門会議	情報発信
2011年8月2日	地域研究交流センター第6回運営委員会	
2011年8月9日	子育て支援リーダー養成講座	生涯学習
2011年8月12日	授業開放講座募集〆切	
2011年8月28日	池田地区総合防災訓練への参加・協力	交流・支援

2011年9月16日	富士河口湖町地域子育て創生事業	生涯学習
2011年9月20日	富士河口湖町地域子育て創生事業	生涯学習
2011年9月22日	子育て支援リーダー養成講座	生涯学習
2011年9月28日	地域研究交流センターニューズレター「tobira」第14号発行	情報発信
2011年10月2日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2011年10月4日	地域研究交流センター第7回運営委員会	
2011年10月7日	富士河口湖町地域子育て創生事業	生涯学習
2011年10月9日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2011年10月15日	ソーシャルワーカーリカレント講座	生涯学習
2011年10月15,16,17日	池田地区文化祭への協力	交流・支援
2011年10月16日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2011年10月19日	甲府市幼児教育センター月齢別講座（人間福祉学部）	生涯学習
2011年10月20日	甲府市幼児教育センター月齢別講座（看護学部）	生涯学習
2011年10月21日	子育て支援リーダー養成講座	生涯学習
2011年10月21日	甲府市幼児教育センター月齢別講座（人間福祉学部）	生涯学習
2011年10月22日	ソーシャルワーカーリカレント講座	生涯学習
2011年10月22日	第1回地域再生ファシリテーター養成講座	
2011年10月23日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2011年10月23日	保育リカレント講座	生涯学習
2011年10月23日	やまなし映画祭2011　1日目	戦略開発
2011年10月24日	富士河口湖町地域子育て創生事業	生涯学習
2011年10月25日	第5回情報発信部門会議	情報発信
2011年10月25日	甲府市幼児教育センター月齢別講座（看護学部）	生涯学習
2011年10月26日	甲府市幼児教育センター月齢別講座（人間福祉学部）	生涯学習
2011年10月27日	甲府市幼児教育センター月齢別講座（看護学部）	生涯学習
2011年10月28日	甲府市幼児教育センター月齢別講座（人間福祉学部）	生涯学習

2011年10月30日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2011年11月1日	甲府市幼児教育センター月齢別講座（看護学部）	生涯学習
2011年11月1日	富士河口湖町地域子育て創生事業	生涯学習
2011年11月1日	地域研究交流センター第8回運営委員会	
2011年11月5,6日	富桜祭で福祉専門職交流コーナー設置	交流・支援
2011年11月12日	県民コミュニティカレッジ地域ベース講座「東日本大震災後の社会と日本を考える」第１回	生涯学習
2011年11月12日	健康講座	生涯学習
2011年11月12日	第2回地域再生ファシリテーター養成講座	
2011年11月13日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2011年11月18日	富士河口湖町地域子育て創生事業	生涯学習
2011年11月19日	県民コミュニティカレッジ地域ベース講座「東日本大震災後の社会と日本を考える」第２回	生涯学習
2011年11月19日	やまなし映画祭２０１１　2日目	戦略開発
2011年11月20日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2011年11月20日	やまなし映画祭２０１１　3日目	戦略開発
2011年11月22日	第6回情報発信部門会議	情報発信
2011年11月27日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2011年12月3日	県民コミュニティカレッジ地域ベース講座「東日本大震災後の社会と日本を考える」第３回	生涯学習
2011年12月4日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2011年12月6日	地域研究交流センター第9回運営委員会	
2011年12月6日	富士河口湖町地域子育て創生事業	生涯学習
2011年12月10日	県民コミュニティカレッジ地域ベース講座「東日本大震災後の社会と日本を考える」第４回	生涯学習
2011年12月10日	第3回地域再生ファシリテーター養成講座	
2011年12月11日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2011年12月11日	文化庁日本語指導者養成講座（基礎編）	生涯学習
2011年12月13日	第2回生涯学習部門会議	生涯学習
2011年12月17日	県民コミュニティカレッジ地域ベース講座「東日本大震災後の社会と日本を考える」第５回	生涯学習

2011年12月18日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2011年12月18日	文化庁日本語指導者養成講座（基礎編）	生涯学習
2011年12月20日	第7回情報発信部門会議	情報発信
2012年1月18日	甲府市幼児教育センター月齢別講座（人間福祉学部）	生涯学習
2012年1月19日	「学生優秀地域プロジェクト」選考委員会	交流・支援
2012年1月20日	甲府市幼児教育センター月齢別講座（人間福祉学部）	生涯学習
2012年1月21日	第4回地域再生ファシリテーター養成講座	
2012年1月22日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2012年1月22日	文化庁日本語指導者養成講座（基礎編）	生涯学習
2012年1月24日	甲府市幼児教育センター月齢別講座（看護学部）	生涯学習
2012年1月25日	甲府市幼児教育センター月齢別講座（人間福祉学部）	生涯学習
2012年1月25日	子育て支援フォーラム	生涯学習
2012年1月29日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2012年1月29日	文化庁日本語指導者養成講座（基礎編）	生涯学習
2012年1月31日	甲府市甲府市幼児教育センター月齢別講座（看護学部）	生涯学習
2012年2月2日	甲府市甲府市幼児教育センター月齢別講座（看護学部）	生涯学習
2012年2月3日	甲府市甲府市幼児教育センター月齢別講座（人間福祉学部）	生涯学習
2012年2月5日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2012年2月5日	文化庁日本語指導者養成講座（基礎編）	生涯学習
2012年2月9日	甲府市幼児教育センター月齢別講座（看護学部）	生涯学習
2012年2月12日	文化庁日本語指導者養成講座（基礎編）	生涯学習
2012年2月14日	地域研究交流センターニューズレター「tobira」第15号発行	情報発信
2012年2月18日	文化庁日本語指導者養成講座（基礎編）	生涯学習
2012年2月18日	第5回地域再生ファシリテーター養成講座	
2012年2月19日	日本語・日本文化講座	生涯学習
2012年3月3日	文化庁日本語指導者養成講座（基礎編）	生涯学習

2012年3月4日	文化庁日本語指導者養成講座（基礎編）	生涯学習
2012年3月6日	池田地区健康祭りへの協力	交流・支援
2012年3月10日	第6回地域再生ファシリテーター養成講座	
2012年3月23日	2011地域研究交流センター研究報告会	地域研究

資料２．フライヤー等

2012

www.yamanashi-ken.ac.jp

年度

山梨県立大学
地域研究交流センター
研究報告会

山梨県立大学地域研究交流センターでは、大学の知的資源を有効に活用することによって地域社会の発展に寄与したいと考え、本学教員による地域貢献に資する研究に対して支援をおこなって参りました。今年度も、その成果を地域により広く発信し、より多く還元することを目的として「地域研究交流センター研究報告会」を実施します。どうぞお気軽にご参加ください。

PROGRAM

A606教室

13:40 川池智子（人間福祉学部准教授）
「支援の必要な子どもと家族」のニーズと地域支援ネットワークに関する研究

14:10 安藤麻子（国際政策学部准教授）
大学と外国人学校を繋いだ連携日本語教育に関する研究
～指導方法の確立と教材化を目指して～

14:40 張 兵（国際政策学部准教授）
山梨企業の中国進出の動向と課題

15:10 安達義通（国際政策学部准教授）
山梨県のコミュニティビジネスのあり方に関する研究

15:40 斉藤秀子（人間福祉学部教授）
地域資源を活かしたビジネス展開の可能性について
－甲斐絹の伝承と発信のためのプログラム開発－

サテライト教室

13:40 渡邊裕子（看護学部准教授）
若者との交流による地域高齢者の自己の役割認識と社会貢献の活性化に関する研究

14:10 泰崇美恵（看護学部講師）
在宅ケアにおける専門職連携実践（IPW）推進に必要な実践力に関する研究
－訪問看護師と介護支援専門員の連携の実態に焦点をあてて－

14:40 伏見正江（看護学部教授）
森を活かした女性の健康プロモーション研究

15:10 長坂香織（看護学部准教授）
多文化共生推進プロジェクト
保健・医療・福祉における大学・地域・行政の連携に向けて

15:40 清水恵子（看護学部教授）
青少年を対象とした自殺予防教育の推進に関する研究３

日時　2012.3.23（金）
時間　13:30～16:00
場所　山梨県立大学A606教室
　　および サテライト教室
料金　無料（出入り自由）

お問い合せ

〒400-0035 甲府市飯田5-11-1
山梨県立大学
TEL. 055-224-5260
担当：山梨県立大学地域研究交流センター

2010

www.yamanashi-ken.ac.jp

年度

山梨県立大学
地域研究交流センター
研究報告会

山梨県立大学地域研究交流センターでは、大学の知的資源を有効に活用することによって地域社会の発展に寄与したいと考え、本学教員による地域貢献に資する研究に対して支援をおこなって参りました。今年度は、その成果を地域により広く発信し、より多く還元することを目的として「地域研究交流センター研究報告会」を実施します。どうぞお気軽にご参加ください。

日時 2011.3.17(木)
時間 13:30～18:00
場所 山梨県立大学C館101
料金 無料(出入り自由)

PROGRAM

13:40 池田京子
やまなし地域女性史「聞き書き」プロジェクト

14:00 伏見至江
森の力を活かした女性の健康プログラム

14:20 浅石ゆり子
看護学生との交流による地域リーダー
高齢者の活動への満足度・心理・若者像の変化

14:40 清水恵子
青少年を対象とした自殺予防教育の推進に関する研究2

15:00 荒町　誠
障害者自立支援法時代の基礎自治体における
地域生活支援の人材開発：山梨モデルの研究－その2

15:20 ―――― 休憩 ――――

15:40 安藤恵子
大学と地域の連携による多文化共生推進プロジェクト

16:00 吉田　玲
個人観光客に対応したユニバーサルデザインによる
着地型観光ルートマップのモデル開発に関する研究

16:20 熊谷龍一
よつびし総研プロジェクト2010
－よつびし総研による甲府中心市街地活性化事業－

16:40 藤原秀子
地域資源を活かしたビジネス展開の可能性について
－甲斐絹の伝承と発信のためのプログラム開発－

17:00 張　兵
山梨企業の中国進出の動向と課題

17:20 高羽敦子
山梨県産業金融史
－「岩尾財閥地所部決算報告」分析を中心に－

お問い合せ

〒400-0035 甲府市飯田5-11-1
山梨県立大学
TEL. 055-224-5260
主催：山梨県立大学地域研究交流センター

山梨県立大学地域研究交流センター

2011 春期総合講座

最前線シリーズ

山梨県立大学の常設講座です。

山梨県立大学の各学部を代表する教員が、時代のもっともホットな話題を、
具体的かつわかりやすくみなさんにお伝えします。
アカデミックな刺激に満ちた春期総合講座へ、ぜひお誘い合わせておいでください。

1

演　題　「ホームレス」って誰？
…生きることを支え合う地域の力

講　師　**下村　幸仁**氏
（人間福祉学部教授　専門領域：社会保障論）

開催日時　5月21日（土）　午後2時～4時

会　場　山梨県立大学A館6階サテライト教室

2

演　題　「日本のお年寄りの秘めたる力
～いつまでも自分らしく生きる～」

講　師　**井出　成美**氏
（看護学部准教授　専門領域：地域看護学）

開催日時　5月28日（土）　午後2時～4時

会　場　山梨県立大学A館6階サテライト教室

3

演　題　「魚を守る取り組みと
消費者のかかわり（仮題）」

講　師　**森田　玉雪**氏
（国際政策学部准教授　専門領域：資源経済学、国際経済）

開催日時　6月4日（土）　午後2時～4時

会　場　山梨県立大学A館6階サテライト教室

＊申込受付

TEL.055-224-5260
FAX.055-224-5386
E-mail　ucre@ml.yamanashi-ken.ac.jp

にてお申し込みください。
なお、FAXまたはメールの場合、件名として「春期総合講座への参加希望」をお書きいただき、
氏名、住所、電話番号を必ず、ご記入ください。

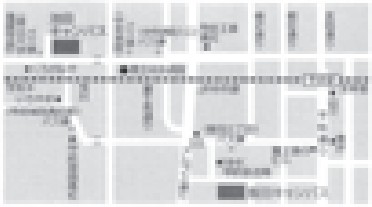
＊主催：山梨県立大学　地域研究交流センター

知ることは、
学ぶことへの
第1歩です！

やまちゃん

山梨県立大学

飯田キャンパス（国際政策学部・人間福祉学部）



山梨県立大学　観光講座2011

山梨から発信する「新しいツーリズム」

観光は長い歴史を持っていますが、近年その内容はかなり変化してきています。一般的には、名所・旧跡を団体で巡るという従来型観光は減少し、個人・数人グループ旅行で好きな目的に沿った場所を訪れるようになりました。体験型のツアーも増えました。今回は、山梨を生かし、全国に発信できる「新しいツーリズム」を4例発表します。

キャンパスキャラクター
やまちゃん

第1回
2011年6月11日(土) 開催時間 14:00～16:30
「ワインツーリズム」
笹本 貴之氏（ソフトツーリズム株式会社社長）
06年「ワインツーリズム山梨」を事業化して地域づくりに本格着手。08年から毎年、勝沼地域で「ワインツーリズム」を主催している。

第2回
2011年6月18日(土) 開催時間 14:00～16:30
「フィルムツーリズム」
前澤 哲爾氏（元全国FC連絡協議会専務理事）
日本にフィルムコミッションを導入し、01年全国組織を立ち上げる。今では全国に500ヶ所を越えるまでに拡大。現在、山梨県立大学教授。

第3回 2011年7月2日(土) 開催時間 14:00～16:30
「グリーンツーリズム」
曽根原 久司氏（NPO夢がおつなげて代表理事）
01年、農林業をしながら"村・人・時代つくり"をコンセプトに都市農村交流の実現を目指すNPOを設立。「空と土プロジェクト」などさまざまな活動を展開。

第4回 2011年7月9日(土) 開催時間 14:00～16:30
「フットパスツーリズム」
山本 育夫氏（NPOつなぐ理事長）
03年、NPOを設立し、各種ツアーづくりと、ガイドブックづくりを行う。現在、山梨県下にフットパス170コースを作り、170種のガイドブックを自主制作。

会　場　山梨県立大学A館6F サテライト教室（甲府市飯田5丁目11-1）　**入場無料**

■お問い合わせ・お申し込み　山梨県立大学 地域研究交流センター　TEL.055-224-5260 FAX.055-224-5386
E-mail:ucre@ml.yamanashi-ken.ac.jp　件名を「観光講座」とし、氏名・電話番号・住所・参加希望日をFAX又は電子メールでお送りください。

主催:山梨県立大学／実施:地域研究交流センター

「学びたい」～その気持ちを山梨県立大学が応援します！

授業開放講座

9月28日スタート！

山梨県立大学は、平成17年に開学以来、
地域や社会に開かれた大学をめざした取り組みを進めております。
今回、その一環として、
大学の正規の授業を受講できる授業開放講座を
創設することになりました。
学生たちと共に学ぶ授業開放講座に、
広く県民の皆様が受講されることをお待ち申し上げます。

受講条件

高等学校卒業程度以上の学力を有する方ならどなたでも受講応募ができます。
受講の決定にあたっては、各科目担当教員が選考条件を定めますので、
別途配布する募集要項でその条件をご確認ください。

授業開始日

平成23年9月28日より順次

場所

山梨県立大学飯田キャンパス（甲府市飯田5-11-1）
山梨県立大学池田キャンパス（甲府市池田1-6-1）
授業によって異なりますので、別途配布する募集要項でご確認ください

募集要項の請求

電話：055-224-5265、FAX：055-224-5386、Eメール：ucre@ml.yamanashi-ken.ac.jp にて
平成23年度後期山梨県立大学授業開放講座受講生募集要項の送付をお申し込みください。
※なお、FAXまたはEメールの場合、件名として
「平成23年度後期山梨県立大学授業開放講座受講生募集要項の送付希望」と
お書きいただき、氏名、住所、電話番号を必ずご記入ください。

受講申込書の送付先及び申込期限

〒400-0035
山梨県甲府市飯田5-11-1　山梨県立大学学務課
平成23年8月12日午後5時（必着）

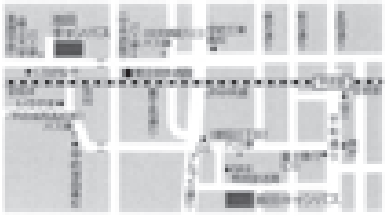
知ることは、
学ぶことへの
第1歩です！

やまちゃん

山梨県立大学

飯田キャンパス（国際政策学部・人間福祉学部）
〒400-0035　山梨県甲府市飯田5-11-1　TEL.055-224-5261　FAX.055-224-5274

池田キャンパス（看護学部・大学院看護学研究科）
〒400-0007　山梨県甲府市池田1-6-1　TEL.055-253-7760　FAX.055-253-7791



東日本大震災後の社会と日本を考える

パブリックテーマ講座

平成23年度県民コミュニティカレッジ（地域ベース）

開催場所／山梨県立大学 A館6階サテライト教室

第1回 11月12日（土） 午後2：00～3：30
山梨発の震災ボランティア活動で見えてきたこと
特定非営利活動法人 甲斐のめぐみ理事 林辺 正治

第2回 11月19日（土） 午後2：00～3：30
災害時の感染予防対策について 看護学部講師 城戸口 親史

第3回 12月3日（土） 午後2：00～3：30
東日本大震災に見るエネルギーシフトの可能性 ～地域経済論的視点からの考察～
国際政策学部准教授 二宮 浩輔

第4回 12月10日（土） 午後2：00～3：30
震災によるストレスと心理的ケア 人間福祉学部教授 西澤 哲

第5回 12月17日（土） 午後2：00～3：30
現代文明と震災・原発事故 ～大量消費・大量生産がもたらしたもの～
国際政策学部教授 山本 武信

今回の東日本大震災後、東北地方を中心に多くの被災地が困難な状況から復興へと努力しています。一方、この未曾有の災害は現代社会に多くの警鐘を響かせ、われわれの生活や将来の日本の姿を今一度見直す機会を与えてくれています。震災から学ぶ地域社会からの新たな視点を、福祉・看護・経済社会などの本学教員による各専門分野から提言する講座です。

お申し込み
〒400-0035 甲府市飯田 5-11-1 山梨県立大学（学務課窓口）
TEL：055-224-5260　FAX：055-224-5386
E-mail：ucre@ml.yamanashi-ken.ac.jp

ソーシャルワーカー　リカレント講座 2011

ソーシャルワーカーのための
調査ツール入門

利用者からサービスが選ばれる福祉の時代、これからの福祉に求められるのは、地域住民、利用者、当事者の的確なニーズ把握です。

この講座では、新時代の福祉の中で、利用者の求める事業を展開するための科学的エビデンス、それをつかむための有効な方法としての、調査ツールを紹介します。

SPSSもワードマイナーも一般向けの本はいろいろでていますが、多機能のために、かえってわかりにくいところがあります。

今回は、それらを、シンプルに使うための「はじめの一歩」の講座となります。

コーディネーター　川池智子（人間福祉学部）

第1回

アンケート集計・図表がすばやい

SPSS入門

集計が手早い、グラフなどが簡単につくれるといった面でも優れモノです。

日時　**10月15日(土)**
13:00～16:30

講師　米山 宗久 氏
（甲斐市社会福祉協議会）

第2回

自由記述集計の最新ツール

ワードマイナー入門

自由記述、インタビュー記録などの質的分析に役立ちます。企業の顧客アンケートでも活用されています。

日時　**10月22日(土)**
13:00～16:30

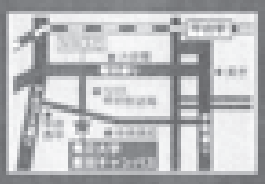
講師　保田 明夫 氏
（富士通エフ・アイ・ビー・システムズ（株））

場所：山梨県立大学飯田キャンパス A館5階コール教室
参加費：無料　　定員：各回40名。先着順です。

お申し込み・お問い合せ先

〒400-0035 甲府市飯田5-11-1 山梨県立大学（学務課担当）
TEL：055-224-5260　FAX：055-224-5386
E-mail：ucre@ml.yamanashi-ken.ac.jp

山梨県立大学 MAP↓



認知症の正しい理解と介護について

地域で認知症の方を支える活動を通じて――

講　師　NPO法人「やじろべー」代表
中澤　純一氏

日　時　2011年11月12日(土) 14:00-16:00
場　所　山梨県立大学 池田キャンパス201講義室
駐車場　あり（台数に限りがあります）
問合せ　055-253-7780

入場無料

池田キャンパス　〒400-0062 山梨県甲府市池田1-6-1

お申込み　件名を「健康講座希望」とし、「氏名・電話番号・住所・参加人数」を記載のうえ、FAXまたはE-mailでお送りください。
FAX:055-224-5386 / E-mail:ucre@ml.yamanashi-ken.ac.jp

第二弾 | 語り合おう 福祉・保育専門職として何をどう学ぶ？

リズムテコンドーBミニワークショップ もあります。
-こころとからだのリラクゼーション- （渡辺光美先生指導）

「何をどう学ぶか」学生、私たちの主体性が試されます。そして生涯学習の時代、「認定社会福祉士制度」も始まります。現職の専門職みなさんにも関心のあるテーマでしょう。共に語り合いましょう。

パネラー

○社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士
　介護支援専門員・圏域マネージャー　渡辺典子
○健康安全教育アドバイザー、元・幼稚園・小学校教員　渡辺光美
○人間福祉学部　福祉コミュニティ学科1年生　2名※
○人間福祉学部　人間形成学科3年　緒崎智美　神宮字恭平
○人間福祉学部 教員　下村幸仁
　※福祉コミュニティ学科1年生からの登壇者は当日、発表します。

モデレーター

○人間福祉学部 教員　川池智子
○人間福祉学部
　福祉コミュニティ1年生※

指定討論者

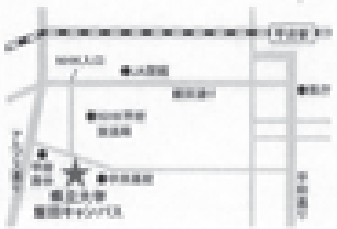
元CA　看護師　等

日時　2012年 1月25日(水) 18:10～20:40 (受付開始17時40分)

場所　山梨県立大学 飯田キャンパス 講堂

入場料　無料(当日入場可)

お申込み　〒400-0035 甲府市飯田5-11-1　山梨県立大学(学務課窓口)
TEL：055-224-5260　FAX：055-224-5386　E-mail：ucre@mi.yamanashi-ken.ac.jp



2011年度　山梨県立大学　地域研究交流センター　年報

発行者：地域研究交流センター長　　前澤　哲爾
編　集：地域研究交流センター　　情報発信部門
部門長　　箕浦　一哉　　（総合政策学科）
平野　和彦　　（国際コミュニケーション学科）
大塚　ゆかり　（福祉コミュニティ学科）
池田　充裕　　（人間形成学科）
大久保　ひろ美（看護学部）
山田　光子　　（看護学部）
発行所：山梨県立大学地域研究交流センター
住所：〒400-0035　山梨県甲府市飯田5丁目1－11
TEL：055－224－5620　　FAX：055－224－5386
E-mail:ucre@yamanashi-ken.ac.jp
URL:hppt://www.yamanashi-ken.ac.jp/ucre/
発行日：2012年6月30日

UCRE

University Center for Research and Exchange
山梨県立大学地域研究交流センター
〒400-0035　甲府市飯田５－１１－１
TEL 055-224-5310 FAX 055-224-5330